

研修みずれわ

Vol. **57** 2024

めざせ

100年



歴史探訪 第三弾
国宝『松島青龍山瑞巖円福禅寺』散策



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

Contents



写真：瑞巖寺庫裏

巻頭言 新年を迎えて～次の50年に向けた研修事業への思い～			
	渡辺 志津男	日本下水道事業団	1
新任の挨拶 第一線で活躍できる人材の育成をサポートします			
	豆谷 竜太郎	日本下水道事業団	2
進化する人材育成	橋本 康弘	日本下水道事業団	3
「人と人のつながり」を大切に更なる発展に期待			
	早川 尚秀	栃木県足利市	5
7回目の年男を迎えた初代助教授の思うこと	懐かしの研修部		
	望月 保	(元) 東京都 (研修OB 助教授・教授)	7
受講体験による人のわ・みずのわ	古山 淳夫	岩手県二戸市	10
研修講師体験記 講師研修を通じて発見した日本下水道事業団研修センターの魅力			
	有働 健一郎	福岡県福岡市	12
あの人は今！			
「懐かしき研修の思い出」	長島 正昭	茨城県小美玉市	14
「下水道研修の振り返りと未来への展望」	須藤 嘉久	静岡県島田市都市	15
「事業団研修の思い出と受講して得たもの」	廣 匡博	京都府長岡京市	17
『日本一の紙のまち』より	星川 賢二	愛媛県四国中央市	19
コロナ禍で受講できず・人事異動…でも！	南條 夕芽	福島県須賀川市	21
【雑感】大谷翔平選手を思う	長沼 輝伸	岩手県南広域振興局	24
歴史探訪 第3弾 歴史・文化の継承と創造—松島町			
	大宮司 綾	宮城県松島町	28
研修生だより			
「事業団研修を通じて」	竹内 元貴	北海道石狩市	31
「事業団研修を振り返って」	廣澤 美穂	栃木県佐野市	32
「事業団研修を振り返って」	得地 明乃	埼玉県さいたま市	34
	鈴木 信也	山形県河北町	36
臨時研修の縁（えにし）～「頻発する豪雨・暴風・地震災害の対策」を受講して～			
	岡川 裕介	埼玉県草加市	37
「事業団研修を受けて」	土佐 吉宗	新潟県加茂市	39
佐野・足利小ロマンの旅 北関東・栃木のまちで癒しの時間を			
	新井 正章	栃木県足利市	41
同窓会ニュース			
宮山福会	梁川 秀幸	宮城県松島町	43
福岡みずのわ会	熊添 秀哉	福岡県福岡市	45
みずのわ熊本会	西村 隆博	熊本県熊本市	46
令和6年度 戸田研修（対面集合）実施計画			48
下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について			50
研修センターの歩み			53
編集後記			巻末

巻頭言

新年を迎えて

「次の50年に向けた研修事業への思い」

日本下水道事業団

理事 渡辺 志津男



日本下水道事業団（JS）は設立時の1972年度から研修事業を実施しており、昨年度で50周年を迎えました。2023年度からは新たな気持ちで次の50年に向けて、研修事業を実施しております。

この間、受講いただいた研修生は8万5千人を超えるに至っており、研修生の皆さまをはじめ、派遣団体ならびに講師の皆さま、研修事業の関係者など、多くの皆様のご支援、ご尽力に改めて心から感謝申し上げます。

ご承知のとおり、2020、2021年度は新型コロナウイルスが猛威を振

るつた中で、多くの研修を中止せざるを得ず、いかにして研修を実施するかというところで、2022年度から一部試行的に実施していたオンライン研修を本格的に実施したほか、内容を吟味したうえでオンデマンド研修の取組みも開始するなど、より受講しやすい研修を心掛けております。オンライン研修、オンデマンド研修の実施によって、従来、研修センター（埼玉県戸田

市）まで来ることができなかった皆さんの受講も可能になり、結果として新たな層を取り込むことができました。

こうした新たな研修手法にも取組んでおりますが、やはりJSの研修は座学だけではなく演習、実習に大きな特徴があり、それがJS研修の強みでもあります。そのため、宿泊研修に様々な研修手法を組み合わせて実施し、研修生同士のネットワークの構築にも役立てていただくことも大きな研修成果の一つだと考え

ております。

2023年度はコロナがインフルエンザと同じ5類扱いとなり、全ての集合研修を開講しております。2022年度に完成した新寮室棟をフルに活用し、研修生のプライバシーを確保しながら、研修生同士の交流が可能になっています。研修生が共有して使用する学習室や開放的な談話室などがあり、現在は研修生にご協力いただき、コロナ感染防止を図りつつ、より効果的に研修生の交流が実現できる環境を提供してまいります。

これからのJS研修は、第6次中期経営計画における「下水道プラットフォーム」としての役割を果たすため、皆様からのご意見も踏まえ、さらに魅力的なものになるよう新たな工夫も取り入れてまいります。次の50年に向けては、DXやAIの進展により、研修事業の形式やあり方も大き

く変わっていくものと思いますが、そうした状況の変化も的確に捉え、研修生の皆さんにとって、より有益な研修事業をお届けする努力を継続してまいります。今後とも地方公共団体や民間企業の技術者の育成と技術継承などに向けて、全力で取組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



第一線で活躍できる人材の育成をサポートします

日本下水道事業団研修センター

所長 豆谷 竜太郎



日頃より日本下水道事業団（J S）の受託建設事業や研修事業に対してご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。令和5年4月より研修センター所長を拝命しました豆谷です。第25代目の所長になるそうです。どうぞよろしくお願いたします。

これまで計画、設計、施工管理、調達、自治体派遣、プロジェクトマネジメントなど、主に受託建設事業に関する業務に長く携わってきましたが、研修センター勤務は初めてになります。若手時代は研修生として、中堅になると研修講師

としてときどき研修センターに来る機会がありました。調べてみると20歳代の頃に4回、トータル80日に渡って戸田研修を受講しています。今でも忘れられない思い出になっていいるのは、初めての戸田研修、入社してすぐの5月に受講した「管きよI…20日間（今の管きよ設計Iの前身）」の研修です。社会人になっ

たばかりで右も左もわからない私が管きよの流量計算、測量（ただポールを持つて走り回っていただけだった？）、製図、数量計算、積算の実習を当時の先生や研修仲間に教わりなが

ら、何とか勤務先の所属長に手作りの設計書・図面を提出できたことがそれ以降の仕事を進めていくための小さな自信に繋がったと記憶しています。当時は体育の授業もあり、ソフトボールやボウリングの写真も残っています。寮室は2段ベッドの8人部屋だったと思います。コロナ禍を経験

した若い皆さんには考えられないと思いますが、あの頃の研修は一日中物理的に密な状況で、だからこそ40年近く経った今でも多くの方々と年賀状をやりとりしているような関係性が築けたのではないかと考えて

います。

ただ、今の新寮室棟を見ますと、きれいでプライバシーにも配慮した個室化がなされ、また研修生同士の交流を醸成する談話室の整備もされており、本当に今の研修生の皆さんが羨ましく感じるのも事実です。

さて、J S研修センターは国内唯一の下水道に関する専門研修機関です。その特徴は、①専門知識と実務経験を有する講師陣が講義をします。1年間で約1、

設見学等を含んだ、実務に直結したカリキュラムになっています。③原則、全寮制の研修スタイルをとっており、研修生同士が寝食を共にすることで、早く打ち解け合つて有効な人的ネットワークが構築できます。このネットワークはそれぞれが職場に戻つてからも相談し合える関係性となり後々貴重な財産になるものと考えています。

800コマの講義を行っていますが、その半分はJ S教授陣が担当し、残り半分は国や地方公共団体、民間企業の方々に協力いただき講師をしていただいていますので、現在進行形の実務に寄り添った講義を提供できると自負しています。②

研修コースが下水道事業全般を網羅しており、単なる知識の習得を目的とした座学だけではなく、演習や実習、ディスカッション、施

設見学等を含んだ、実務に直結したカリキュラムになっています。③原則、全寮制の研修スタイルをとっており、研修生同士が寝食を共にすることで、早く打ち解け合つて有効な人的ネットワークが構築できます。このネットワークはそれぞれが職場に戻つてからも相談し合える関係性となり後々貴重な財産になるものと考えています。

この継承が欠かせません。J S研修で皆さんが学んだ知識を、それぞれの事業体の業務の中でさらに育んでもらい、いろいろな難題の解決に挑んでいただきたいと思っています。もちろん、我々J Sが受託建設事業を含め、いろいろな形

進化する人材育成

で、お手伝いさせていただくことも可能だと思いますので、下水道事業について何かありましたらご相談いただければと思っております。

なお、戸田研修以外にも、

オンライン（ライブ）、オンデマンド（動画視聴）研修のメニューも充実させていますのでご利用いただきたいと思いますが、どうしても半日もしくは1日程度の座学となるため、基礎知

識の修得に限られてしまいます。オンライン、オンデマンドで基礎知識を身につけたうえで戸田研修に来ていただけるとさらに高い研修効果が得られると考えていますので、ご検討ください。

い。これまで同様、研修生の皆さんに健康な状態で研修を受講し、職場に戻っていただくために、コロナ、インフルエンザなどの感染症対策も引き続き配慮しながら、

「ウオーターPPP」など新たな施策に関する研修もラインナップしていきますので、これからも多くの方々の研修受講をお待ちしております。

日本下水道事業団研修センター

次長（兼）研修企画課長

橋本 康弘



昨年11月に事業団は創立50周年という記念すべき年を迎え、次なる50年に向けた新たな1年が始まりました。ひとえに地方公共団体の研修生を始め、派遣団体の方々、講師の方々や研修業務関係者の皆様のご支援、ご協力のたまものと感謝申し上げます。

前号でも簡単に紹介をい

たしましたが、現在のライフスタイルに合わせるためプライバシーを確保し、女性研修生の増加に対応するため新寮室棟が昨年4月にオープンしました。

過去に研修に来られた方はご存じだと思いますが、管理本館棟の寮室は研修生同士の交流を深めるため寮室前にグループ学習室があり、そのグループ学習室で時間外の勉強、人事交流を図れるようになっておりその構成が非常に好評でしたので、その学習室スタイルを残しつつも寮室は全室個

また、新寮室棟は地震対策にも重点を置き免震構造を採用しており万が一地震に見舞われても非常に安全な施設となっております。JSの研修も新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、急激に広まりを見せたWeb会議サービスを利用したオンライン研修を令和2年度の試験的に実施

し、令和3年度から本格的に導入いたしました。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために急遽導入したこともあり、集合研修で使用していた研修室を利用して実施したため、非常に急ごしらえ感はいなめず、講義を実施する講師や、その研修をサポートするJS職員にとつて実施しやすい環境とは言いがたい環境で、講師自身が受講生にどのように見えているか受講生がどのように反応を示しているかが判りづらい環境でした。また、複数のオンライン研修を同時に実施できることとオンライン研修用機器

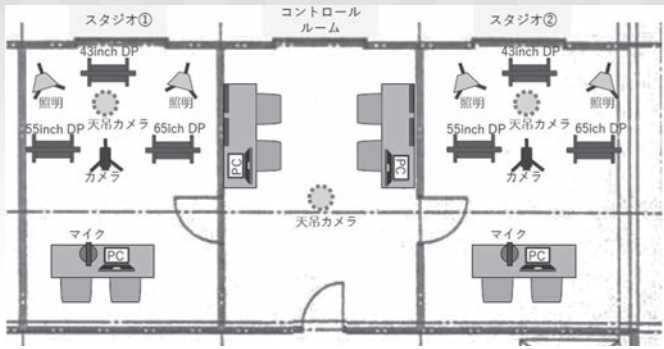


図1 スタジオ平面図



寮室と学習室



コントロールルーム



スタジオ

がトラブルを起こした場合のバックアップも兼ねまして複数の研修室をオンライン研修用に使用しておりますでしたが、場所が離れていたためサポーターするJ S職員がオンライン研修室間を行き来することが非常に手間ともなっております。

そのような状況を打開するため、令和4年度末にオンライン研修やオンデマンド研修用の動画撮影のための専用スタジオを構築いたしました。

先にも記載しましたがこの数年間にオンラインで研修を実施してきたノウハウより、オンラインで講義を実施する場合であっても講師にとってやはり受講生がどのような反応を示しているかわかることが非常に重要であることがわかりました。そのため、受講生の顔を向かって右側に設置し、また受講生のパソコン画面

にどのような映像が映っているかを把握するためのモニタを向かって左に設置しました。

さらに講師の表情がわかりやすいように中央にはカメラを設置しています。

講師のサポートを実施する担当者はスタジオに隣接するコントロールルームにて支援を実施することにより講義の邪魔にならず作業が行えます。

また、コントロールルー

ムの両サイドにスタジオを設置したことにより2コーラスを同時に実施することも可能です。

オンライン研修の要であるインターネット通信環境は、通信速度が2 G b p s の専用回線も完備してあります。

また、昨今の働き方改革や水道従事職員の減少に伴う勤務形態の変化にも対応すべくクラウドサービスを利用しいつでもどこでも受講が可能なオンラインデマンド研修を昨年度から実施しました。集合研修やリアルタイムのオンライン研修のように決まった時間に研修をすることが難しい皆様に対しても視聴可能な期間であれば動画を再生できる機器であればパソコン、タブレット、スマホなど機器を選ばず、インターネットに接続できれば会議室でなく執務室内の自席、自宅からでも場所を選ばずに視聴することが可能で、さらには聞き逃しても巻き戻して聞き直すことができます。また、動画ですので分けて視聴することも可能です。

戸田での対面集合研修は非常に研修効果が高く、人的交流もでき、研修後の業務の遂行に非常に効果的ではありますが、労働人口の減少時代のニーズに即した研修内容と研修スタイルに取り組んでおりますので、ご活用頂ければ幸いです。

「人と人のつながり」を大切に更なる発展に期待

栃木県足利市

市長 早川 尚秀



日本下水道事業団が、これまで半世紀にわたって研修事業を実施し、全国の下水道技術者の育成などに貢献し、地域の生活環境の改善に寄与されてきたことなど、多大なる功績に深く敬意を表します。

足利市は、栃木県の南西部、東京から約80kmの位置にあります。市内には、日本最古の学校で日本遺産で

もある史跡足利学校や足利氏ゆかりの国宝鑿阿寺など、多くの歴史的建造物が残る歴史と文化のまちです。令和3年には、市制施行100周年を迎え、次の100年も希望に満ちた未来を描くための将来都市像として「誇り高く仁を育み挑戦し続けるまち」を掲げ、常に挑戦し続けるまちを目指しています。

現在、100周年記念事業の特別展で展示した、本市ゆかりの刀剣「山姥切国広」の取得と未来への継承を目的とした「縷（るる）プロジェクト」を立ち上げ、クラウドファンディングなどを通して全国の刀剣ファ

ンをはじめとする皆さまからご支援をいただいているところです。刀剣「山姥切国広」を介して結ばれた多くの方々との「つながり」を「縷」という言葉があらわすとおり「細く、長く、途切れることなく」紡いでいきたいと考えています。

また、本市の文化財を活用した「夜景観光」に力を入れており、昨年11月に開催した「夜景サミット2023 in 足利」では全国から多くの方が訪れてくださいました。特に、足利学校周辺で実施し、関東三大夜灯に認定された「足利灯り物語」や、インターナショナルイルミネーションアワード、イルミネーションイベント部門優秀ストーリー賞1位に輝いた「あしががフラワーパーク光の花の庭」を満喫していただき



「山姥切国広」を展示した刀剣展（足利市立美術館）

ました。夜景を通して得たつながりを活かし、今後も新しい発想を取り入れつつ、地域資源を磨いて新たな価値を生み出していきま。このように「人と人のつながり」を大切にして、誇れるふるさと足利づくりに邁進しているところで

す。

本市と日本下水道事業団とのかわりですが、昭和47年の創立以来、多くの職員が研修に参加させていただき、広範な専門知識や技術を習得するほか、全国から参加している自治体職員とのつながりを持てるなど、人材育成の貴重な場となつています。さらに、研修に参加した職員の中には、その後講師として逆の立場でお世話になる者もいると聞いています。

研修生として参加する以上に教える立場となれば、事前の学習が必要となり、職員にとつては更なる知識の習得の場であり、より技

術力の高い職員が育成される良い機会と捉えています。

一方、本市の下水道処理施設である足利市水処理センターの建設においても、日本下水道事業団にお世話になり、その後の増築や改築の際にもご支援をいただいています。昭和52年の運転開始以来、大きな事故もなくこれまで順調に水処理を続けられてきたことは、日本下水道事業団の高い技術力と豊富な経験に基づいた施設整備のおかげであると強く感じています。

本市の下水道事業は、昭和39年に着手し今年で60年となります。そのため、下水道施設などの老朽化が著しく、下水道事業を取り巻く環境も厳しさを増していますが、下水道は市民生活に欠かせない社会インフラであることから、持続可能な経営を行わなければなりません。さらには、近年、頻発化・激甚化している自

然災害に向けた対応も不可欠であり、新しい技術や手法を積極的に取り入れ、下水道事業の課題解決に向けた取組を推進していきま

す。

全国的にも公共施設の老朽化が問題となっておりますが、本市においても下水道施設以外の公共施設の更新事業が多々あり、厳しい状況になっていきます。しかし、今まで後回しにして取り残されてきた多くの課題について、私の代で解決するよう職員に指示し、一丸となって取り組んでいるところ

です。

私の好きな言葉に、「創意」があります。新しく考え出した見方、新しい意思、新たな工夫という意味になりますが、慣例にとられない考えを持たなければ、多くの難しい課題を解決することはできないでしょう。それには、いろいろな情報を習得し視野を広げなければならず、「人と

人のつながり」が重要であります。

日本下水道事業団におかれましては、今後も、全国の研修生との「つながり」を大切にする、職員の成長を促す研修を引き続きお願いするとともに、全国各地の下水道施設の整備にあ

り、その知見を活かして支援されることを期待していただきます。

結びに、日本下水道事業団の益々のご発展と、全国の下水道事業関係者の皆様のご健勝を祈念申し上げます。そしてあいさつとさせていただきます。



足利学校に設置された行燈「灯り物語」

7回目の年男を迎えた
初代助教授の思うこと



「タイス」の瞑想曲 (スマネ)

懐かしの研修部

(元) 東京都下水道局参事
(研修OB 助教授・教授)

望月 保

1. はじめに

研修みずのわ会員の皆様
こんにちは。

私は昭和50年(1975年)日本下水道事業団がそれまでの下水道事業センターから改組・発足した8月1日に初代研修部助教授として東京都から派遣されました。

東京都内の下水道工事の最前線で働いていたところ

てからベルヌイの定理から思い出すのに苦労したものです。

2. 光陰矢の如し

あれからおよそ半世紀、80歳の壁を越えて早くも4年、「光陰如箭」(光陰矢の如し)という古今の名言を実感する日々です。日本人の平均寿命は男81.64歳、女87.74歳というから運よく長生きしているほうだと言えるかもしれません。

日常生活には困らない程度の体力は維持しています。後期高齢者も後半と思われるこの頃、身辺の整理いわゆる終活をそろそろ始めました。長年楽しんできたゴルフは3年前に卒業し、そのための必要のなくなった車は廃車して運転免許も昨年返納しました。ドライバーが飛ばない、曲がるといふ悩みや池ポチャの恐怖からも解放され、交通

渋滞のニュースやガソリンの値上がりも一向に気にならなくなったのは終活のおかげです。

過日、朝食後テレビを見ていたら、NHKの「チコちゃんに叱られる!」という番組になりました。エネエ岡村、道路の交差点にマンホールがいつぱいあるのはなぜか知ってる? という問いかけで始まり、それは下水を流すためだという内容でした。下水道管の方向変更や落差の調整などのため必要なものなのだと、マンホールの構造や底部のインバートを見せながら日本下水道協会の岡久理事長が分かりやすく解説していました。

昭和38年(1963年)東京都下水道局に採用となり、系統図や流量表の見方・作り方を先輩から教えられた頃を懐かしく思い出しました。
63歳から趣味で通いはじめたバイオリン教室は、コ

コロナ禍の休眠状態を脱して
 活況を取り戻してきまし
 た。腕前は一向に上達しま
 せんが、手を細かく動かす
 のは認知症の予防に役立つ
 と言われ通っています。何
 よりも先生が美人なので
 す。コロナが終息の気配が
 見えてきた昨年に、13人
 中9人が感染するというク
 ラスターに巻き込まれまし
 た。バイオリン教室の発表
 会に向けてバツハのG線上
 のアリアやドヴォルザーク
 の弦楽セレナーデを合奏練
 習していたのですが、その
 夜先生からコロナにかかっ
 てしまったとのLINEが
 流れ、気のせいか自分も咳
 が出て熱もあるような感じ
 で不安な一夜を過ごしまし
 た。

翌日、近所のかかりつけ
 医に電話すると、夕方一般
 の診療が終わってから来る
 ように、と言われ、行くと
 厳重に防護服に身を固めた
 院長夫妻がPCR検査をし
 てくれました。結果は次の

日に判明し、やはり陽性。
 熱は38度ほどでしたが咳が
 ひどくなり家に帰って一人
 寝込みました。保健所から
 も連絡が入り、夕方のテレ
 ビニュースでその日の感染
 者数が報道されるのを見
 て、あの中に自分も1人分
 入っているのだと思ったり
 しました。その夜のうちに
 医師が処方した薬が薬局か
 ら届けられ、翌朝には区役
 所からインスタント食品が
 宅急便で配送されてきまし
 た。

自宅療養といっても同じ
 フロアにいる老妻に感染の
 恐れがあるので入院できな
 いか保健所に相談したところ
 ホテル療養を勧められ、
 さつそくお願いすると2日
 後の朝タクシーが迎えに来
 てくれて新宿のアパホテル
 に連れていかれました。フ
 ロントには誰もいなくて、
 名前の書かれた封筒が置いて
 あり、それをもって中に
 入っているルームキーで入
 室しました。

ホテルはコロナ患者専用
 で、各階のエレベーター
 ホールに配られる食事を受
 け取りに行く以外は廊下
 にも出てはいけないというほ
 ぼ監禁状態。朝晩看護師か
 ら電話で体温と血中酸素飽
 和度を聞かれました。スマ
 ホは使えるのはじめのう
 ちは部屋の様子や弁当を写
 メして家に送信してしまし
 たが、体調が重症になりそ
 れも出来なくなりました。

今でも不思議に思うので
 すが、コロナは感染から7
 日経つと治ると決まってい
 るのか、3泊した翌朝にホ
 テルを退出と言われタク
 シーを拾って帰宅しまし
 た。

確かにこの頃には元気も
 かなり出てきて、朝昼晩3
 色の冷たい弁当が終わるの
 が嬉しかったです。

自宅に戻っても完全に回
 復したのは一か月後でした
 が、最初のPCR検査の費
 用と帰りのタクシー代以外
 は全て無料だったのは驚き



京都市新宮川町お茶屋「小澤」にて

でした。日頃から後期高齢者医療保険が高すぎると嘆いていましたが、この時ばかりは日本の政治も捨てたものではないという思いがしました。

3. ナベさんとの思い出

研修部に最初に着任して机を並べたのが、渡邊良彦さん(現・特任教授)でした。夏でも三つ揃いの背広に身を固めた紳士で、講義や演習などでも力を合わせ支援していただきましたが、もっとお世話になったのは夜の部でした。地元の戸田、蕨、西川口など遅くまで呑み歩き、マンションに泊めてもらったことも幾度か。

3年間の研修部勤務を終え私が東京都に戻った後も付き合いは続き、神楽坂の裏道にある小さな酒処によく通いました。

ある晩、普段はママしかいないはずのカウンターの中に若くてきれいな女性が和服姿にタスキ掛け姿できびきびと働いていて二人とも目を見張りました。聞けば近くに住む女子大生で今夜からアルバイトに入ったとのこと。ナベさんにとつてはまさにこの日が運命の日となりました。どのくらい経ったのか忘れましたが、しばらく後二人はめでたく結ばれ盛大な結婚式に招待されました。

今や5人の子宝に恵まれ、子宝明神の称号も得られたそうですが、本当にめでたい限りです。これもひとえに清廉潔白、いつも明るく礼儀正しいナベさんの人徳の賜物だと思います。

4. 人生100年時代

下水道という日々の暮らしに慣れてはならない社会

インフラの建設に携わり、普及促進に微力をささげてこられたことは生涯の喜びです。そんな人生のある時期を日本下水道事業団研修部で全国の皆様と知り合えたことは大きな大きな財産となりました。研修みずのわ会員の皆様のみならずのご発展を心よりお祈りいたします。人生100年時代と言われる今日、せっかくコロナ禍をくぐり抜けたのですからもう少し生きて世の中の移り変わりを心楽しく見ていきたいと思えます。

少年老い易く学成り難し
一寸の光陰軽んず可からず

未だ覚めず池塘春草の夢
階前の梧葉已に秋声



お茶屋「小澤」の芸妓と舞妓

受講体験による 人のわ・みずのわ

岩手県二戸市建設整備部

部長 古山 淳夫



しました。

この2つの研修は、20日程度と長い研修でしたので覚えていますが、そのほかに1週間の研修に行った記憶があり、遡って思い出しました。「維持管理コース・業務委託活用法」を平成12年11月に受講しておりました。

研修「みずのわ」が57回目の発刊を迎えるとのことで、これまで、下水道事業の研修を支えられてこられました下水道事業団の関係者を始め、多くの方々のご努力に敬意を表します。また、昨年度に完成しました新寮室棟も個室化され、研修環境の充実を図れることと思っております。

私が初めて事業団研修を受講したのは、平成9年5月に「実施設計コース管きょⅠ」でした。その後、平成13年12月に「処理場管理Ⅱ」を受講

しました。この2つの研修は、20日程度と長い研修でしたので覚えていますが、そのほかに1週間の研修に行った記憶があり、遡って思い出しました。「維持管理コース・業務委託活用法」を平成12年11月に受講しておりました。

このような、研修生としては、遠い過去の話となり、「研修生便り」を投稿するには時間が経ち過ぎて恐縮なのですが、今回、渡邊特任教授より下水道事業団研修の講師を依頼され、その際に「研修生便り」への投稿を依頼いただきました。

今回、講師ということ、22年ぶりに研修センターを訪問させて頂きましたが、新しい研修棟が完成しており、しかも個室とのことで、研修環境が向上していることを実感しました。今では、個室ということも珍しいことではなくなりましたが、22年前は、中央に学習室があり両側に4人づつで、計8人部屋でした。昨今のコロナウイルスが猛威を振るった時代では、考えられない密な状態でした。その分、研修する仲間との関係も密だったと思います。また、夜も西川口方面に飲み行っていたことが楽しい記憶としてあります。その西川口もチャイナタウンと化して寂れてしまっているとのこと、昔の華やか街並みが思い出されます。

さて、今回の執筆依頼に際しまして、「研修みずのわ」の55号と56号を参考に頂きました。その中で特に目を引いたのが55号で特集「子宝神社の命名について」です。

私は、若かりし頃に研修しておりましたので、渡邊特任教授の子宝神社の恩恵には授か

れませんでした。当市にも、子宝を授かる金勢神社があり「枋ノ木神社（こぶのきじんじゃ）」といます。私は、この神社を参拝して、すぐに子宝に恵まれましたので、少しご紹介したいと思います。

全国的に、子宝を授かると言われる神社には、色々ありますが、特にも男根形を御神体としている神社は、金精神社・金勢神社・金清神社などと称しており、全国に多数存在している模様です。その中でも、岩手県には、なんと、一説によると「金精様」発祥の地という神社が存在しております。この神社があるからなのか、このような神社が北東北に多く存在しています。当市の枋ノ木神社も、この発祥の神社から御分神された御神体を祀る神社とのことです。枋ノ木神社の金勢様は、子孫繁栄や夫婦和合・縁結びなど「子孫の神」として広く信仰を集め、全国から数々の

御利益が報告されておりパ
ワースポットとなっていま
す。

この神社では9月に祭典が
行われており、山車の見返り
などに御神体を乗せての運
行や、御神体を乗せた神輿を担
いで、二戸駅前の約10%勾配
の道路100mを駆け上がる
神輿レースなどを開催し、祭
典を盛り上げております。小
生も若かりし頃の20代に神輿
レースに参加したことがあり
ますが、神輿を担いでの坂道
は非常にきつかった思い出が
あります。

また、屋台では、男根形を
したチョコバナナ、こちらで
は通称「チョコバナナ」が売
られており、近年はエスカ
レーターし、練乳をかけてくれ
ます。これは、特に、男性よ
りは女性に好評で、大きいチ
○コバナナ(300円)と小
さいチ○コバナナ(200円)
があります、女性は大きい

方がいいと言って買われてい
ます。

これは、少し下品になりま
したが、このような祭典は、
女性が寛容でなければ続かな
いし、御利益が実際にあると
信じる方が多くいるので祭典
も盛り上がるのだと思いま
す。

近年は、少子高齢化が急速
に進んでおり、当市において
も、出生数が10年で半減して
いるとゆう危機的な状況で
す。金勢様の勢いで、人口減
少に歯止めをかけ、人口増加
に転じて頂きたいものです。

最後に、今回の執筆は、渡
邊特任教授の子宝神社の話か
ら当市の金勢様の話となりま
したが、表現等につきまして
は、民俗学の色々な文献等を
参考としています。

しかし、もしも、表現や内
容等で御不快の念をおかけし
ましたら、大変失礼いたしま
した。



坊ノ木(こぶのき)神社

講師 研修 記 体験



この度は、日本下水道事業団研修センター創立51周年、並びに「研修みずのわ」第57号の発刊、誠にありがとうございますとございます。また、「研修みずのわ」への寄稿にご依頼頂きまして、心より感謝申し上げます。当初、講師回数2回の私よりも経験豊富な講師の皆様がいらっしゃいますので、ご辞退申し上げますと考えると考えておりましたが、研修センターの素晴らしい魅力をご紹介できる良い機会と思い、お引き受けしたところであります。

私は、平成5年に福岡市役所に入庁し今年で30年となりました。その間、約20年間は道路下水道局にて下水道の計画、設計、工事、国土交通省下水道部への出向など下水道事業に携わり、令和5年4月から水道局にて水道事業の計画に携



福岡県福岡市水道局計画部
部長 有働 健一郎

講師研修を通じて発見した 日本下水道事業団研修センターの魅力

わっております。

私と研修センターとのつながりは、12年前に日本下水道事業団を代表する渡邊良彦先生と「福岡みずのわ会」にてお会いしたことから始まります。私は研修センターで、渡邊先生の研修を受講したことは残念ながらありませんが、コロナ禍を除き毎年開催される「福岡みずのわ会」での渡邊先生による夜の研修の受講者でありますので、私も先生の門下生の一人であると勝手ながら考えております。

私が行った講師の内容は、令和4年度から始まった臨時研修である頻発する豪雨・暴風・地震災害への対策に関するものです。福岡市における浸水被害軽減のハード・ソフト対策の事例紹介、東日本大震災や熊本地震の震災直後の下水道復旧第1陣支援隊長としての経験を踏まえた教訓や今後の対策、更には災害対応DXの事例紹介などを行いました。

令和5年度の研修は、10月26日、27日の2日間にわたり行われました。1日目は、2時間の福岡市における豪雨・地震災害対応の事例紹介、夜は研修生の皆様との懇親会、2日目は、早

朝9時から30分間の災害対応DXの事例紹介、午後は2時間のパネルディスカッションであり、研修生の皆様から沢山の鋭い質問を頂きました。講師経験が殆ど無い私としましては、水道局での通常業務の合間をぬってのプレゼン資料作成や想定問答準備も含めて、かなりのハードスケジュールであり、今回の渡邊先生からの依頼は、実は、「研修の講師」依頼ではなく、「講師の研修」を受講しないかという意味ではないかと思っております。私としましては、学校で教鞭をとってみたいと昔から憧れがありましたので、これは夢が叶う機会を頂いたと、渡邊先生には、とても感謝しております。

もちろん、講師を引け受けるからには、全国から越しの研修生の皆様にとりまして有意義で即戦力とな

る研修でなければなりません。そのため、講義にあたっては、できる限り飽きがかこないよう動画を用いること、難しい表現はさげ文字はシンプル、写真や模式図を多用すること、喋りは原稿を読むのではなく自分の言葉でかみ砕いてしゃべること、質問で即答できないものは、宿題として受け、調べて速やかに回答すること、そして受講生の皆様と同じ自治体職員であり、また同じ研修生同士（講義を受ける側と講義をする側）という立場でありますので、先生というより対等な立場で、一方的な講義というより対話を意識して行いまいした。（不慣れで至らぬところ多々あったと思いますが、ご不明な点等ございましたら、いつでもご質問お待ちしております！）

そして今回、研修センターの講師研修を受けて、改めて発見した魅力をご紹介します。

1つ目は、研修センターは、下水道技術の習得やネットワークづくりの場の役割だけでなく、心身ともに元気を頂くパワースポット的な場所であることです。渡邊先生をはじめとした先生など職員の皆様だけでなく、清掃や調理業務などに従事されている皆様も含め、とても元気に活き活きと活躍されており、研修センター全体が活気と熱気、笑顔に満ち溢れ、気さくに和気あいあいと話かけてもらううちに、こちらまで生命力エネルギーを頂きました。

2つ目は、研修センターの近郊には、非常に素晴らしい名所があります。研修が終わった翌日の土曜日に、渡邊先生、大鹿先生に導かれ、埼玉県加須市の「WAKUI MUSEUM（ワクイミュージアム）」を案内いただきました。土曜日は本来休館日ですが、大鹿先生のご紹介とい

うことで、特別に開館していただき貸切りで館長からご説明いただきました。

このミュージアムは、Rolls-RoyceやBentleyというイギリスを代表するクラシックカーを集めたミュージアムで、涌井さんという方が、世界中から300台以上集めた中から、更に厳選された車が展示されており、例えば白洲次郎や吉田茂が当時愛用した車や世界最古のオリジナルベントレーが、常に動くように整備された状態で保存されています。涌井さんのクラシックカーやスポーツカーにかける男の情熱やロマン、当時の白洲次郎が生きた時代を五感で感じることが出来るなど、車に興味がない方も十分に楽しめる夢のような産業博物館ではないかと思えます。休日にもかかわらず案内頂きました、渡邊先生、大鹿先生あらためて感謝申し上げます。

結びに、末筆となりましたが、日本下水道事業団研修センターの今後100周年に向けた益々のご発展と、全国の研修生の皆様のご活躍ご健勝をご祈念申し上げます。



「WAKUI MUSEUM」にて館長から説明を受けている様子

一番手前の車：白洲次郎愛用のスポーツカー
館長が手をついている車：吉田茂のクラシックカー

あの人は今！

懐かしき研修の思い出

茨城県小美玉市都市建設部道路建設課

課長 長島 正昭



城県小美玉市を少しご紹介させていただきます。

本市は、平成18年に旧小川町、美野里町、玉里村の2町1村が合併し市制を施行し、旧町村の頭文字をとって「小美玉市」として誕生

この度は、「研修みずのわ」第57号への寄稿について、渡邊良彦特任教授からお声掛けをいただき、大変驚きながらも光栄なことと思ひ、かなり昔のこととなりますが、JS研修での充実した思い出を振り返りながら執筆させていただきました。

私はこれまで、2度JS研修を受講させていただきましたが、思い出を呼び起こす前に、私が勤務する茨

港（航空自衛隊百里基地との共用空港）があり、現在、主に空港周辺の地域資源を活用した賑わいや交流の創出、基地との共生や歴史・文化の活用を図りながら、空に親しみ、空を身近に感じるまちづくりに取り組み、未来に継承できる個性ある地域生活圏の形成を目指しております。

さて、本題の思い出になります。1度目の研修は平成11年度に受講した「実施設設計コース・管渠Ⅰ」でありました。これが渡邊先生との「みずのわ」の始まりです。

同士との交流も期待し参加いたしました。この研修は講義内容すべてが新鮮であり、講師の先生方から非常に多くの貴重な勉強をさせていただきました。

また、講義外の時間における、全国各地から集まった研修生との交流がまさしくこの研修の最大の思い出になったことは、言うまでもありません。毎晩のように気の合う研修生とともに、それぞれ地元から集まったお酒や名産品を酌み交わしながら、語らいの時間を過ごしたことを今でも記憶しております。少し羽目を外し過ぎ、研修センター職員の皆様にご迷惑をおかけしたことが、改めてお詫びいたします。

約80Km、面積は144.74Km²で、茨城県のほぼ中央部に位置し、起伏が少ない平坦な地形が特徴で、南部は国内2番目の広さを誇る湖、霞ヶ浦に接しています。緑が多く、温暖な気候で、災害の少ない肥沃な土地であることから、主要な産業として農業が定着しています。

また、市域東部には本市の特性の一つである茨城空

2度目の研修は、平成13年度に受講した「工事監督管理コース・工事管理Ⅱ」でありました。2年ぶりの

JS研修でありましたが、渡邊先生には担当教授でないにもかかわらず再会を大



茨城空港（空港公園）

変歓迎していただき、忙しい中色々とお誘いいただき、楽しい時間を過ごさせていただいたことを覚えております。

この研修は、工事を監督する下水道等に関する技術

上の実務講習であり、専門性の高い内容でしたが、通算11年間下水道業務に携わるにあたり、大変実のある研修となりました。

その後、私は下水道事業から離れ、教育、都市計画、

企画政策と畑違いの部署に従事していましたが、現在は下水道と同じ都市建設部に戻り、地域の生活環境の向上、子どもや高齢者の安全性や快適性を図るための道路整備を、管理職の立場として事業を取りまとめております。

本市においては、近年の物価高騰などにより、各種事業においてより一層のコスト削減を図ることが求められています。このことは、他自治体においても同じことではないでしょうか。新たな施設整備に加え、老朽化する公共施設の維持保全など、厳しい財政状況を職員一人ひとりが認識し、財源不足の解消に向けて積極的に取り組む必要があります。特に本市の職員においては、一般事務での採用職員がほとんどであり、事業団での研修は、下水道業務に携わる職員にとって、仕事に対する能力向上には必要不可欠であります。今後

とも、研修に参加する職員の育成についてご配慮くださいますよう、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、大変お世話になりました渡邊先

生をはじめ各講師、研修センターの皆様、20数年前にご一緒した研修生の方々の活躍と、下水道事業団の益々の発展をお祈り申し上げます。

下水道研修の振り返りと未来への展望

静岡県島田市都市基盤部下水道課

課長 須藤 嘉久



田市」を少しかけ紹介させていただきます。

この度は、「研修みずのわ」第57号への発刊に際して執筆依頼の機会を与えていただき、渡邊特任教授に心から感謝申し上げます。まず初めに、我が町「島田」は、静岡県のはほぼ中央に位置し、北には南アルプスへ続く山々が連なり、南西に広がる緑豊かな牧之原台地には、見渡す限りの茶園が広がっています。「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と唄われた東海道の難所であった大井川が市内を流れており、その大井川下



大井川鉄道のSL機関車

流域には、明治12年に架けられた全長897.4m、幅2.4mの「世界一長い木造歩道橋」としてギネスブックに認定されている「蓬萊橋」が有名で、ロケ地などでも人気の観光スポットとなっております。

また、東西を横断する国道1号、新東名高速道路、JR東海道本線や富士山静岡空港は、陸・空の要衝となっており、大井川鐵道が現役で運行しているSL列車や機関車トーマス号、レトロな電車が、大井川上流沿線を走っており、旅の途中に立ち寄れる川根温泉など、大井川流域に広がる自然・歴史・美味・人情がたっぷ

り詰まった癒しの町です。是非とも一度は島田市に立ち寄って見てください。

さて、私は平成25年度に日本下水道事業団が主催する17日間の「管きよ設計II」の研修に参加しました。

その当時の私は、下水道課工事係長という立場でありながら、下水道に関する知識や実務経験は浅く、部下からの相談事にも満足に指示することが出来ずに苦慮しておりました。そんな折、事業団研修への話があり、不安を抱えながら長期間の研修を受講したことを覚えていきます。

そして、研修を無事に終えて、工事係長として担当した現場では、研修で学んだ色々なことが大いに役立ちました。特に、管渠開削工事の施工精度が非常に高いパーミリ勾配で設計した工事を的確に指示監督した経験は、貴重なものとなりました。

その研修から早いもので

10年が過ぎ、時の経過に驚きつつも、その研修当時のことが思い出される今日この頃です。

下水道課では3年間勤務し、その後は市街地整備課や建設課などの部署を経て管理職の立場となり、令和4年度に下水道課長として再び下水道に関わっております。現在、私は下水道に関連するさまざまな課題に直面しており、特に下水道整備の将来の方向性や汚水処理施設整備計画（アクションプラン）が計画通り進行していないことなど責任の重さを痛感しています。

研修中は、全国から参加した受講生の内、同室となった6人の仲間たちとお酒を酌み交わしながら毎夜の意見交換会は、とても楽しく不安だった研修にもすぐに馴染んでいきました。講義では、講師の先生から突然に意見や回答を求められた時には、学生時代に戻ったような緊張感を味わ

いました。また、共同宿泊施設の大部屋にはテレビはありましたが、6人の共同部屋にはテレビがなく、当時は自宅から持ち込んだミニテレビで、日曜21時からTBS系で放映して当時

反響のあった堺雅人主演の「半沢直樹」を見たことを思い出します。また、九州のM県N市から参加したNさんとは直ぐに意気投合し、休日には一緒にレンタカーを借りてお台場に行き、初代南極観測船「宗谷」を見に行ったりことや研修センターの自転車を借りて、近くのイオンモール北戸田店までお酒など買い出しに誘って行ったこともありました。また、共同宿泊施設と一緒に参加していた女性の仲間たちとも和気あいあいでお酒を飲みながら、それぞれの各自治体の状況や課題などを楽しくディスカッションしたことなどが思い出されます。研修に参加した当時の仲間たちと下

水道整備に関する疑問点や課題などについて、お互いに連絡を取り合い、各人の実務経験から学んだことから対応策などを共有し合う環境を整えていければと思います。

今後とも「研修みずのわ」を通じ、下水道事業団の方々と研修生とが協力し、知識と経験を共有し、効果的な下水道事業に貢献していくことを楽しみにしています。

最後に、島田市では平成7年度の下水道供用開始以後、何十人も職員が研修生として参加させていただき、多くの貴重な知識と能力を身につけさせて頂きました。この機会に改めてお礼申し上げますと共に、日本下水道事業団の益々のご発展と渡邊特任教授を始め、研修センターの皆様、そして、当時一緒に研修に参加した皆様方の一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

事業団研修の思い出と 受講して得たもの

京都府長岡京市

建設交通部都市計画課

課長 廣 匡博



この度、渡邊特任教授から「みずのわ」の寄稿依頼を直々に頂き、本誌の貴重な一枠をお借りすることとなり、正直、私でよいのかなど驚きながらも大変光栄なことと思ひ、お引き受けさせていただきました。

執筆依頼に際して、余談がありますので少し紹介したいと思います。

10月下旬に数年前に退職

された大先輩の谷口氏から「みずのわを渡邊先生から直接貴方宛てに送付してもよいか、貴方の携帯番号も伝えてよいか」と突然の連絡があり、「はい、分かりました」と返事をした翌日の朝一番に渡邊先生から携帯に一報が入り、いつものお元気な声で「おー久しぶり、元気にしてる？」と、かなりご無沙汰しているにもかかわらず軽く挨拶会話をしている、「谷口先輩が間違ったお願いをしたみたいだね。10月の宮山福会で谷口君に会った際、廣さんに「みずのわ」の原稿執筆依頼をすると言っていた

のに「みずのわ」を送ると言ったみたいだね、関西代表でよろしくね。」とお言葉があり、渡邊先生からも突然の寄稿依頼をさらっとお願いされた次第である。

前置きはこのくらいにして、かなり昔のこととなりますが、自身の事や入所当時の長岡京市の下水道状況、事業団研修を思い返しながら執筆をさせていたいただきたいと思ひます。

私は昭和58年4月に高校の農業土木科を卒業して長



JR長岡京駅からの市内眺望

岡京市に技術職として入所し、建設部下水道課に配属されました。本市は昭和49年度に公共下水道の事業認可を取得し事業着手しており、当時の下水道普及率も20%程度で、首長選挙でも公共下水道事業の早期整備を公約に掲げておられるくらい、公共下水道を1日でも早く整備していく時期でありました。

私自身2度、事業団研修を受講させていただきましたが、特に印象に残っている入所して間もない昭和58年8月の「管きよ設計I（第3回）」3週間コースについて、お話しをさせていただきます。

社会人になって5か月目の18歳の小僧が職場の上司や先輩から渡邊先生に連絡しておいた。色々と教えてくださるから頑張ってくださいと肩を押され、公私に渡り右も左も分からない不安な状態で研修センターに赴きました。



竹の路

当時の研修センターの宿泊部屋のメンバーは岩手県平泉町の高橋さん、熊本県玉名市の早上さん、千葉県松戸市の金子さんの4人で、皆さん、20歳代の先輩技師の方たちで研修中も公私に渡り色々な事を教えていただき、大変お世話になりました。

また、研修担当の渡邊先生には大変お世話になりましたが、特に他コースの研修生の方と一緒に夕食会や二次会などに連れて行っていただき、まだ子供だった私には夢のような時間で、夜の研修でも大変お世話に

なったことを思い出しました。

研修内容については、40年前なので正直、詳細な事は記憶していませんが、開削工事の設計で縦断測量を行った際に、レベル測量で一番重要なのは箱尺持ちだと言われ、暑い中、先輩の指示に従って走り回っていました。

やはり、一番の印象に残っているのは、研修後の夜のデイスカッションで、部屋の方やコースの方が職場から酒やワインなどを送ってこられたものを持ち寄って、毎夜、大宴会を行っていた事ですね。もう時効なのでよいと思えますが、部屋の先輩からは毎日、必ずコップ一杯のビールを飲むことを言われ、早々にダウンしてベッドで寝ていました。当時は今と違って、未成年でもお構いなしでした。(笑)

また、週末の土曜日の午

後(昔の役所は半ドンでした。今の若い職員さんは分からない言葉だと思えます)から玉名市の早上さんと2人で松戸市の金子さん宅に伺い、確か宿泊させていただいたと思います。夜に金子さんの家用車で開園したばかりの東京デイズニーランドを見に行き、かなり広大な敷地に建設されており凄い物が出来たと感動しつつも、特に駐車場の広さに驚いた事を鮮明に覚えています。

私も入所以来40年間の内、下水道事業部署に通算28年間在籍し、計画、工事、維持管理と一通りを経験することで技術職としての基礎を学ばせていただきました。これまで、何とか勤めてこられたのも、上司や先輩の指導、同僚、先輩に助けられたおかげもあります。事業団研修での毎夜のデイスカッション経験が、人との「わ・こ・ミュ・ニケーション」が大切だと教

えてくれたと感じていますし、研修で一緒に先生方や全国の自治体の方との出会い、交流をさせていただいた事で得た知識や経験、人脈などが色々な意味で私の財産となり、社会人として成長させてくれたと感謝しております。

最後に渡邊先生をはじめ、研修でお世話になりました諸先生方、一緒に研修を受講した皆様に感謝を申し上げます。今後も日本下水道事業団のご発展と各分野でご活躍されている研修生皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



八条が池と長岡天満宮

『日本一の紙のまち』より

愛媛県四国中央市建設部下水道課

課長 星川 賢二

当市は、平成16年に2市1町1村（伊予三島市・川之江市・土居町・新宮村）の合併により誕生いたしました。愛媛県の東端に位置し、四国四県に接しており、来年で合併二十周年を迎えようとしております。

私が最初に『研修みずのわ』（第35号）の原稿依頼を受けましたのは、合併以前の旧川之江市で初めての下水道課で工事担当者として2回目の事業団研修を終えた平成10年、『伸ばそう下水道』を合言葉に工事に邁進していた時でした。それからからは経ち、現職となり組織方針の実現に向け、課の責任者として適時の判断等に努め、業務を遂行し

ているところでございます

が、去る令和5年10月3日、渡邊先生からの電話、世間話に続き、またもや!! 『研修みずのわ』（第57号）原稿執筆依頼、断る理由もなく筆を執っているところでございます。

私は、平成28年度から3カ年下水道課長を務め、公営企業会計への移行を行った後、他の部局へ異動し、本年度より、再度現職となっております。でございます。

当市の下水道整備につきましては、昭和48年度から公共下水道事業として着手し、川之江処理区は昭和54年8月1日、三島処理区は昭和56年3月31日に供用を

開始し、整備を推進しております。令和4年度末の各処理区の下水道処理人口普及率は、川之江処理区で59.3%、三島処理区で98.4%であり、市全体の普及率は64.1%でございます。

下水道事業につきまして、供用開始から川之江処理区が44年、三島処理区が42年経過しており、施設の老朽化が著しいため、ストックマネジメント計画を策定し、それに基づき改築工事を行う予定です。また、

雨水対策事業では、台風による浸水被害が発生した地域で、不足する流下能力を補完するためポンプ場整備事業に着手しております。御存知の方もいらっしゃるかもわかりませんが、当市は、『パルプ・紙・紙加工品製造業』の製造品出荷額等において（総務省統計局）合併以降連続全国1位

となっている『日本一の紙のまち』でございます。

平成22年に参加校3校で始まり、本年度第16回（第13回大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止）となる、全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会『書道パフォーマンス甲子園』では、全国7ブロックの予選（107校）

を経て、21校が本選へ参加し、書道パフォーマンスを競い合いました。コロナ禍を経て4年ぶりの有観客での通常開催に大会は大いに盛り上がり、優勝に鳥取城北高等学校、準優勝に福岡県立八幡中央高等学校、第3位に長野県松本蟻ヶ崎高

第17回書道パフォーマンス甲子園


令和6年7月28日（日曜日）

開催まで あと 244 日

第17回大会（令和6年）の日程決定！

- ・日時 令和6年7月28日（日曜日）9時00分～
- ・場所 伊予三島運動公園体育館

大会記念冊子販売中！

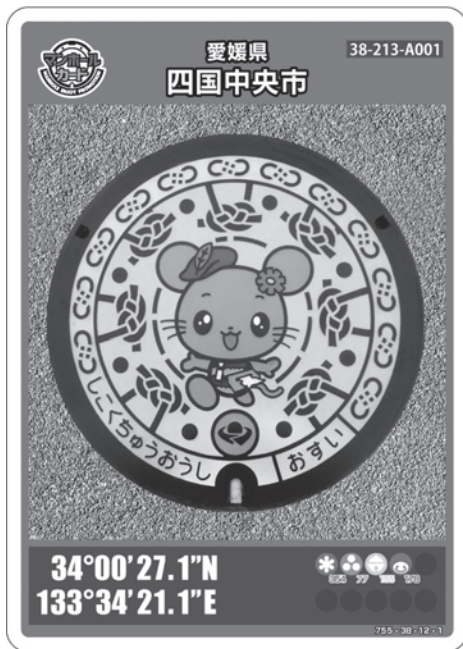


夢の舞台で選手たちが

第16回記念冊子販売中



伊予三島運動公園体育館



マンホールカード



等学校が選ばれました。平成22年5月には、本大会にまつわる実話をもとに映画「書道ガールズ!!わたしたちの甲子園」が、主演の成海璃子をはじめ、桜庭ななみ、高畑充希、小島藤子、

金子ノブアキ、宮崎美子などのキャストにより制作されたので、ご関心のある方は一度ご覧いただけたらと存じます。そういう『紙のまち』でありますが、他の自治体同

様、人口減少・少子高齢化の急速な進行やデジタル化の進展、新型コロナウイルス感染症の流行など、近年のめまぐるしい変化への対応には、大変苦慮しているところでございます。

また、当市では港湾整備や臨海土地造成による防災・減災対策、老朽化した公営住宅の建替え、そして総合病院の再構築など、地域固有の課題に取り組みしておりますほか、日本一の紙のまちを支える製紙産業と連携してエネルギー転換を図るなど、紙のまちならではのカーボンニュートラル、脱炭素化への取組みなども進めているところでございます。

最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展、並びに全国下水道事業に携わる皆様方のご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。

コロナ禍で受講できず・人事異動…でも！

福島県須賀川市経済環境部
農政課農林整備係

南條 夕芽



福島県須賀川市役所の南條と申します。どうぞよろしくお願ひします。下水道事業団創立50周年、誠にありがとうございます。そして、「研修みずのわ」(第57号)の寄稿の機会を

いただき、誠にありがとうございます。寄稿依頼のお声をいただきました。渡邊先生に感謝申し上げます。渡邊先生からこのお話をいただいたときは、研修に参加していい私でいいのか正直戸惑いました。しかし、「研修みずのわ」は前部署に在席していたところからずっと読ませていただいていた機

関誌で、自らの記事が掲載されることを大変嬉しく存じます。

私自身、平成29年度に牡丹キャンペーンクルーに就任していたこともあり、書き出しの始めには、ぜひ、魅力溢れるわがまち福島県須賀川市の紹介をさせていただきたいと存じます。

須賀川市は、福島県の中央に位置する人口およそ8万人の緑豊かなまちで、「福島空港」や、国指定名勝の「牡丹園」があります。牡丹園は、5月上旬の見頃になると、290種類、7,000株が咲き競い、園内は甘い香りに包まれます。幸福と繁栄のシンボル、そして優雅で華麗な牡丹は、訪れた皆様の心を魅了します。

イベントも多く、夏には1万発の花火が打ち上げられる「釈迦堂川花火大会」、秋には勇壮なねぶたやねぶたが繰り出す「長沼まつり」や、唐傘行灯などの花火が秋の夜空を彩る「いわせ悠久まつり」が行われます。そして、

11月には、400年以上の伝統行事「松明あかし」が行われ、紅蓮の炎が晩秋から初冬の夜空を焦がします。

また、須賀川市は、俳聖「松尾芭蕉」が「奥の細道」の旅で8日間滞在し、今も「俳句」が盛んなどころであり、現在、「松明あかし」や「牡丹焚火」が、俳句の季語となっています。

須賀川市は、「二人の円谷」の出身地です。一人は特撮の神様といわれる、株式会社円谷プロダクションの創業者「円谷英二監督」です。その縁から平成25年5月にウルトラマンの故郷「M78星雲 光の国」と姉妹都市になりました。「円谷英二ミュージアム」と「須賀川特撮アーカイブセンター」では、怪獣の造形物、ミニチュアジオラマなどの展示があり、多くの来館者で賑わっています。

もう一人は、1964年東京オリンピックマラソン競技銅メダリストの「円谷幸吉選手」です。メモリアルホールには、実際に履いたシューズや銅メダルなど、貴重な資料が展示されています。

豊かな自然と、今なお先人たちが育んだ、歴史や文化が輝くまち須賀川へ、



牡丹キャンペーンクルー

ぜひ足をお運びいただければと存じます。

それでは、私の自己紹介を含め、下水道事業団に関するこの思い出に触れながら紹介させていただきます。

お話し上げたいことの結論から申し上げますと、私は下水道事業団の研修に一度も参加していないため、下水道事業団の所在地、埼玉県戸田市に伺ったことはありません。また、つい最近までは、お電話でのみ、渡邊先生のお声を伺うばかりで渡邊先生のお姿を拝見することはありませんでした。

私は令和元年に福島県須賀川市役所に土木技師として採用され、下水道施設課に3年間に在席していました。本市の下水道施設課では原則、配属して2年目の年になると、下水道事業団研修の参加申込みの対象者になります。しかしながら、2年目に台風19号の豪災害に見舞われ、2年目の終わりにには地震災害に見舞われ、さらに3年目になると新型コロナウイルス感染症が蔓延し、ことごとく参加申し込みを取りやめる事態となりました。

新型コロナウイルス感染症が収束する兆しがないまま、4年目の人事異動で、他部署への異動が決まりました。そして現在、異動先の農政課に所属して2年目を迎えています。

下水道事業団との距離が縮まるどころか、異動によって離れていく一方でした。ところが、今年、私のメールボックスに一通の案内状が届いたことから、長い期間電話越しのみの関係であった渡邊先生とお会いする機会ができたのです。それは、宮城県・山形県・福島県の下水道事業団研修の受講生OB・OGで結成されている「宮山福会（みやふくかい）」からの案内でした。

OGではない私にお心遣いをいただいたのが嬉しくて、参加の意向を即答しました。また、須賀川市役所の先輩OBの方からのお誘いと、何と云っても渡邊先生からのお誘いのお声をいただいたことが本当に嬉しくて、光栄なことだと感じました。

今回の宮山福会の会場は、宮城県松島町の松島センチュリーホテルでした。日本三景とされる松島湾に面したくつろぎの温泉旅館には、渡邊先生をはじめ、下水道事業団の先生方、主催の宮城県のご来賓として、七ヶ浜町の町長、松島町の副町長がいらつしやること、豪華な海産物のお食事、夕焼けも朝焼けもうつとりするほど美しい窓からの景色、全てに圧倒された記憶があります。渡邊先生は明るく大きなお声で私を迎え入れてくださり、下水道事業団について、たくさんのお話をありがとうございました。いつかまた下水道事業に携わる部署に異動した際には、渡邊先生の講義を受けたいと強く思いました。このご縁はリベンジ成功の日に繋がる第一歩として、これからもずっと続き、さらに広がっていくことを願います。



松明太鼓

宮山福会の皆さまと次回再会するまでに、私は土木技師として下水道事業だけでなく、農業土木など、他分野の専門知識も習得し、オールラウンドで

活躍できるように努力していく所存です。最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの今後益々のご発展

と、宮山福会を通じて出会うことができました皆さまのご健康を心からお祈り申し上げます。



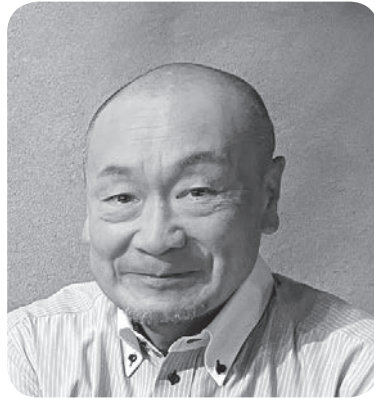
宮山福会 朝食後の集合写真

[雑感]

大谷翔平選手を思う

岩手県南広域振興局
土木部調整課

課長 長沼 輝伸



この度は、「研修みずのわ（第57号）」の発刊にあたり、渡邊良彦特任教授から執筆のお声がけをいただきまして心から感謝申し上げます。

と言いましても、ここ3年続けて執筆の機会をいただいております。ネタも尽きてきたと感じておりましたので今回のお声がけには少々ためらいもありました。

しかし、渡邊先生からいただいたテーマは「大谷翔平選手への思いのたけを書いて！」とのこと…。「やるしかない」ということで、僭越ながら筆を取らせていただくことお許しください。

さて、2023年は野球、バスケットボール、ラグビーと世界大会が目白押しで、いずれも日の丸を付けた日本代表の選手たちが必死に勝利をつかもうとする姿に感動し涙しました。

特に3月に行われた第5回ワールドベースボールクラシックでは、準決勝のメキシコ戦、決勝のアメリカ戦で歴史や記憶に残る名勝負を繰り広げ、最後には優勝という素晴らしい結果を国民にプレゼントしていただきました。新型コロナウイルス、ウクライナ情勢、物価高と混沌とした世の中にあつて、久しぶりに明るく希望に満ちた気持ちになった方は多かったのではないのでしょうか。

その優勝の立役者となったのが「大谷選手」です。決勝戦前のミーティングで彼が檄を飛ばしました。相手が有名なメジャーリーガーであることに対して、「憧れるのをやめましょう。（中

略）今日一日だけは彼らへの憧れを捨てて勝つことだけを考えていきましよう。さあ、行こう！」この言葉に、国民の誰もが胸を熱くしたのではないかと思います。このような言葉を発せるのが私のヒーローである大谷選手です。

今回のテーマは、「大谷翔平選手への思い」です。これから、彼に対しての勝手な熱い思いを少しだけお話させていただきます。

まず、私は、宮澤賢治の生まれ育った岩手県花巻市に住んでおります。平成19年にたまたま花巻東高校のすぐそばに家を構えました。

今でこそ、花巻東高校は甲子園に何度も出場し全国的に知名度をあげていますが、その始まりはやはり平成21年春の選抜高等学校野球大会で準優勝、夏の全国高等学校野球選手権大会でベスト4の成績を残したところからでしょう。菊池雄星選手（現在MLBのトロント・ブルージェイズに所属）をはじめとする選手全員が岩手県出身、常に全力疾走、笑顔絶やさぬ彼らの活躍は、県民はもとより多くの高校野球ファンに感動を与えました。岩手



花巻東高校校舎の垂れ幕



花巻東高校校門の垂れ幕

の高校野球はそれまで、決して強いとは言えず、このような活躍はもう見られないだろうと当時は思ったものです。

しかし、このあと奥州市（旧水沢市）出身の大谷君が花巻東高校に入学したのです。「岩手の人が熱狂してチームを応援した、高校野球で岩手が一つになった、花巻東には日本中から注目されたすごい選手がいた。自分も雄星先輩のように皆から尊敬される選手になりたい。」と雄星選手の後を追って。そして、平成23年夏の甲子園で大谷

選手は全国にその姿を見せることになりました。東日本大震災後の夏の大会でしたので、多大な被害を受けた県民にとって、彼が活躍する姿はとてもまぶしく、希望の光であったと思います。そこで彼は田中将大（駒澤大学附属苫小牧高校）に並ぶ甲子園での高校2年生最速タイ記録（当時）となる150 km/hを記録したのです。3年生の時には、県大会準決勝でアマチュア野球史上初となる160 km/hを記録し大器の片鱗をみせつけましたが、甲子園出場はかありませんでした。

高校を卒業し、大谷選手は日本ハムファイターズに入団、前代未聞の「二刀流」への挑戦を果たし、4年目にはチームを日本一に導き、その後MLBロサンゼルス・エンゼルスに移籍しました。その後の活躍は皆さんが御存知のことと思いますので割愛します。さて、二刀流をプロ野球のレベルで実現することの大変さは素人には何も言うことができませんが、野球ファンにとって、「華があつて、見たことのないプレーを見せ、さらに何かやってくれそうと期待できる選手」でここま

[雑 感]

大谷翔平選手を思う

で「すごい！」とされる選手はこれまでいたでしょうか。漫画の世界で言い表すと高校野球では「ドカベン」の「山田太郎と中西球道」、プロ野球では「巨人の星」の「星飛雄馬と花形満」が合体したプレイヤーです。

高校野球では、「ピッチャーで4番」の選手がチームの主力として活躍することはよくあります。しかし、プロ野球では、あり得ません。そのあり得ないこと、実現できそうにないことに取り組んだのは大谷選手自身の意思によるところが一番だと思えますが、高校時代の佐々木洋監督、日本ハム時代の栗山英樹監督の指導・助言があったことも大きかったと思えます。

栗山監督は、エンゼルスに移籍した大谷選手に対して常々「まだまだだな、もつとやれる」と時には批判めいた言葉で叱咤激励しています。3月のMLBへの出場も栗山監督からの要請であったから大谷選手も快諾したのだと思いますし、大会期間中は絶妙の師弟関係でチームを優勝に導いたと思います。

大谷選手のすごいところは、明確に目標をもち、それをどういうプロセス

で達成するか、目標を達成したら、新たな目標に向かって取り組むところなんだと思います。そして、常に彼の言動は謙虚です。プレー中の相手選手への声掛け、ごみ拾い、インタビュ어의受け応えなどは、日本人だけでなく、世界中で絶大な人気を得られるわけだと思えます。

私はそんな大谷選手が同じ岩手県の出身で、高校時代はそばで切磋琢磨し、活躍していたことが誇らしく、勝手に熱く応援しているわけです。

そして、大谷選手はこの度、なんとロサンゼルス・ドジャースに移籍することとなりました。入団会見は世界中のメディアが注目されるも、わかりやすく、気持ちのこもった丁寧な受け答えに世界中のファンがまた増えたのではないのでしょうか。契約金7億ドル（1,015億円）、想像すらできない巨額な金額にも、大谷選手はいつもと変わらないのです。世界中のファンから愛される理由は、「謙虚かつ聡明の『心』、努力で磨かれた『技』、人懐っこい顔と無双のパワーを生み出す『体』」を兼ね備えた人物だからだと思います。入団会見でロサンゼルス・エン

ゼルスに対して「今あるのはエンゼルスをはじめエンゼルスファンのおかげ」という発言をしています。こういった言動が私たちの心を揺さぶるのではないかと思いますし、赤から青へユニフォームが変わっても、ずっと大谷選手を応援し続けます。

かなり話はそれますが、私の息子は小学4年から高校3年まで野球に取り組みました。スポ少時代は、日頃使用するグラウンドが、花巻東高校のグラウンドと隣り合わせでしたので、大谷君と顔を合わせたり、「おはようございます！こんにちは！」と挨拶を交わしたりするのは普通の出来事で、彼らは身近な存在でした。そのような環境のもとで野球をやれることは息子にとつて何よりの財産だったと思えます。

また、息子の同学年には多くのライバルたちがいて、今もなおプロの世界で活躍しています。雄星選手や大谷選手のとを追いかけ、岩手からどんどん素晴らしい選手が出てくることは、とても素晴らしいです。彼らも勇気・活力を与えてくれます。大谷選手にも負けずに声援を送り、今後の活躍

に期待したいと思っています。

【息子と同学年の選手たち】

▼堀田賢慎・花巻市出身

(スポ少では同じチーム)

(読売ジャイアンツ)

2019年ドラフト1位

▼佐々木朗希・陸前高田市出身

(中学KB大会で対戦)

(千葉ロッテマリーンズ)

2019年ドラフト1位

▼西館勇陽・一戸町出身

(花巻東主戦、県予選で対戦)

(読売ジャイアンツ)

2023年ドラフト1位

最後になりますが、大谷選手のように大事をなすためには何が起きようと揺らぐことのない断固たる決意が必要であり、そして周囲の支援、指導・助言が必要です。

日本下水道事業団研修センターは、その後者にあたる存在です。今後の日本の下水道行政を担い、発展させていくのは、今の若い職員の皆さんです。研修センターには、渡邊先生のように熱く、厳しく、温かい先生方がいらっしやいます。その熱い先生方に対して、

研修生の皆さんは必死になって講義に参加し、研修生どおし切磋琢磨し、またチームメイトとしての繋がりをその後の宝としてほしいものです。WBCのジャパンメンバーのように。

2022年に研修センターも50周年

を迎え、これから次の100周年に向けて歩みを進めていくことと思えます。日本の下水道行政の礎を作る使命のもと、皆に愛され、実り多い研修が今後も継続されることを期待して結びとします。



花巻東高校野球グラウンド

雄星選手、大谷選手が練習にいそしんだグラウンドです。

歴史探訪

第三弾

歴史・文化の継承と創造―松島町

宮城県松島町会計課

次長 大宮司 綾



松島町は、丹後の天橋立、安芸の宮島と並び「日本三景」のひとつに数えられる風光明媚な町で、宮城県の県庁所在地である仙台市から約25kmに位置する本町は、日頃から国内外からの観光客をお迎えしている観光地のひとつです。

松島町の目の前に広がる松島湾は、その景観の美しさが和歌に詠まれるなど、いにしえより人々の心を魅了してきました。その松島湾の美しさを保つため、松島町でも平成の初めから公共下水道の整備をしてきており、これまでに日本下水道事業団研修センターで学んだ本町の職員も数多くいます。私も研修生として研修センターで下水道経営を学んだ職員のひとりです。下水道の部署を離れてからすでに15年が経とうとしていますが、時を経てご縁が薄れるどころかご縁がどんどん繋がって、まさに「みずのわ」のようにあらたなご縁に広がりつつあります。これからも、いただいたご縁を大切にしながら、交流を続けてまいりたいと願っております。

ここからは本題に移りまして、今回は歴史探訪の第3弾として松島町の紹介をさせていただきます。私は生まれも育ちも松島町。自宅から徒歩1分ほど歩けばすぐ目の前には松島湾が広がっており、毎朝美しい多島海景観を見ながら出勤できる幸せ者です。そんな私が皆さまにご紹介したい松島のおすすめの場所はたくさんあるのですが、中でも特にお勧めしたい場所を選びすぐりでお届けしたいと思います。

最初にご紹介したいのは、国宝「瑞巖寺」です。瑞巖寺の正式名称は「松島青龍山円福禅寺」といい、臨済宗妙心寺派の禅寺です。瑞巖寺は古く9世紀まで遡る歴史あるお寺です。現在の瑞巖寺は仙台藩祖の伊達政宗公が5年の歳月をかけて1609年に建てられ、伊達家の菩提寺となっています。瑞巖寺を造営する折には、政宗公が自ら縄張りを行っており、政宗公の瑞巖寺への熱い想いを感じます。桃山美術の粹を集めた本堂、そして庫裡（お寺の台所）は国宝に指定されていて、県

内にある国宝3つのうち、2つをこちらで見学することができますので、ぜひ訪れていただきたいと思えます。本堂に数あるお部屋は、襖絵や天井などの意匠がそれぞれに異なっていて、その違いを楽しみながらゆっくりと見学していただくのがおすすめです。本堂から松島湾の方向へ視線を移すと、中門のところにそびえ立つ2本の杉の木があるのですが、中秋の名月がその2本の杉の木の間に登るとのこと。政宗公のこだわりを感じます。もちろん、我々が中秋の名月を瑞巖寺本堂から眺めることはできませんが、私はそのストーリーに想像をかき立てられて、この二本の杉の太木を心静かに眺める時間が大好きです。庫裡はお寺の台所にあたる場所で、屋根にとっても立派な「煙出し」があります。庫裡の中から「煙出し」を見上げると、大きく美しい梁が目に入ります。政宗公が選りすぐりの木材を調達して瑞巖寺を建てたことがひしひしと伝わります。是非ご覧ください。

瑞巖寺は2008年から10年に及ぶ

大改修が行われ、2018年に平成の大改修が終了しています。改修期間の間には、2011年3月に東日本大震災が発災。発災直後には多くの観光客が帰路につくことができなくなりましたが、瑞巖寺の皆さまのご厚意により避難できる場所、そして食事などを提供していただきました。ほんとうにありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

次にご紹介したいのは、「雄島（おしま）」です。松島は、俳人松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」の発表により多くの観光客が訪れる「観光地」となりましたが、それ以前は、松島湾に大小の島々が浮かぶ多島海景観に人々が極楽浄土の面影を重ね、この世とあの世の境目にある霊場として、修行僧をはじめ、祈りを捧げる人達が訪れる場所でした。平安時代には見仏上人（けんぶつしょうにん）がこの雄島に籠もって修行をして神通力を得たとして、当時の鳥羽天皇にその偉業を讃えられおり、鎌倉時代には頼賢が雄島に籠もって修行して悟りを開いたことか

ら見仏上人の再来と言われました。江戸時代に瑞巖寺の住持となった雲居禪師が座禅をした堂もあり、島内には高僧の修行の名残が今なお見ることができます。供養塔として使われた「板碑」も雄島にはたくさん残っており、世の安寧や大切な人の成仏を祈った人々がこの雄島に訪れたことがわかります。現代のように交通機関が発達して



雄島の洞窟群



いない時代には容易に来ることができなかつたであろう松島に難儀の末に到着し、この景色を見た時、「この世のものとは思えない美しさ！」と人々は思ったのではないかと想像します。松島ローカルの私も、いつも雄島からの美しい景色に心動かされ、ありがたいと思う気持ちが湧き起ります。そして、いろいろなことがめまぐるしく変わるこの世の中にもかかわらず、平安時代の人々も憧れた景色が残されており、それを見ることができるのは幸せなことだと思っています。皆さまも雄島から松島の美しい景観を眺め、少しだけでも日々の喧噪を忘れてのんびりと過ごしてみませんか？

私が参加させていただいている研修OBORG会の「宮山福会」は、宮城・山形・福島の三県で、輪番制で毎年会場を変えて交流会を行っております。本年（令和5年）10月には、ここ宮城県松島町を会場とし、特任教授の渡邊

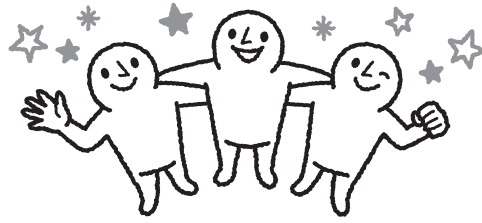
良彦先生をはじめ、関東、ひいては京都から、多くの皆様にお越しいただき楽しい宴を開催できました。そして翌日は皆さんにゆっくりと松島散策をしていただくことができました。歴史探訪実践編（笑）楽しい時間をありがとうございました。

他にも素敵な場所や美味しいものがたくさんある松島町です。ここで全てを紹介することは叶いませんが、この歴史探訪をお読みいただき、ご家族やご友人との旅の行く先を選んでいただけたらうれしいです。是非宮城県に、そして松島町にお越しくださいませ。

末筆ながら、皆さまのご健勝とご多幸をお祈りしつつ歴史探訪松島編を終了とさせていただきます。ありがとうございました。ございました。



瑞巖寺本堂



研修生だより

事業団研修を通じて

北海道石狩市建設水道部
下水道課建設・管理担当

竹内 元貴



この度は、「研修みずのわ」執筆の機会を与えていただきありがとうございます。お声をかけていただきました稲垣先生に感謝申し上げます。

私は大学を卒業後、平成29年に石狩市役所に入庁し、令和4年4月より下水道課に配属され、下水道工事の設計、積算、現場管理等の業務を担当しています。

下水道事業団研修については令和4年度に「実施設計コース『管きよ設計Ⅰ』第3回」を受講しました。受講時には下水道課に異動してから半年程度経過していたため、工事の設計や積算、施工管理の業務を一通り行い、広く浅く知識をつけた状態でした。本研修の受講目的は、下水道の基礎を学び、今後の業務の土台作りのために受講を希望しました。また、本州で生活をしたことがないため、2週間の長期研修がとても楽しみであることと、講師の方や他県他自治体の職員と交流により、情報ネットワークの構築ができると考



え、研修に臨みました。一部、コロナが回復傾向にあった時期であったため、開講や他の受講生との交流ができるか、新寮はきれいかな等の不安もありました。本研修では、現地踏査から発注までの業務を段階に分け、2週間で行われまし

た。現地調査、測量、図面作成、数量作成、積算の流れで行われ、最終成果品として設計書を作成しました。その設計書は所属長宛に送られると説明があり、全受講生の目つきが変わったように見えました。なお、私も変わりました。現地調



お別れ会

ム、筋トレ等を通じ、交流を深めることができました。自由時間での一番の思い出は、『アーチ』です。これは、稲垣先生にお礼をしたいということで、冗談半分が出された案でした。最終日前日の交流会に、稲垣先生

查では、現地を調査し、道路の幅員やカーブがあるか、支障物件の有無、どこにマンホールを設置できそうか等、設計するうえで必要なことを教えていただきました。研修の中で、CADやプリンター等のデジタル化によって、実際に行う機会がない『図面描き、青焼き、色塗り』を行うことができ、とても感動しました。また、積算につきましても、普段は積算システム

を用いますが、手計算で行い、設計書の金額の組み立て方を学ぶことができました。

研修以外の生活については、コロナ明けで、下水道事業団主催の交流会も行われませんでした。受講生主催の交流会を合計2回ほど開催することができ、受講生同士の意見交換や親睦を深めることができました。講義終了後の自由時間では、大部屋でテレビ鑑

にも参加していただき、受講生が手と手を伸ばし作成したアーチを稲垣先生が潜り、見送りすることができました。(写真参照) きっと稲垣先生は大変喜んでくださったと思います。

これらの大変勉強になる講義と自由時間とのメリハリがあったため、2週間があつという間に過ぎ、無事に研修を終えることができました。コロナによる影響で、十分な交流がでなかったにも関わらず、この充実感を味わうことができ、とても満足です。また、新寮に入寮し、きれいな施設や浴場は快適で、健康的な生活を送ることができました。

現在、研修を終えて約1年経過しましたが、日業務において本研修で学んだ知識が生かされる場面が数多くありました。また、基準書にも載っていない事案についてまとめる際、講師の稲垣先生に何度も大変お

世話になりました。今後も、研修で学んだ知識や経験を活かし、業務に励んでいきたいと思えます。

最後になりますが、研修で大変お世話になりました。稲垣先生はじめ各講義でお

世話になりました講師の皆様、共に研修を受けた受講生の皆様に感謝申し上げますとともに、下水道事業団の今後益々の発展と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

事業団研修を振り返って

栃木県佐野市上下水道局下水道課

廣澤 美穂

この度は「研修みずのわ」第57号の発刊、誠におめでとうございます。渡邊特任教授より研修生だより執筆のお声がけをいただき、私で良いのかと大変驚きましたが、貴重な機会というところで引き受けさせていただきました。ご本人よりお電話までいただき恐縮です。ありがとうございます。

属され現在5年目となります。地元である佐野市は栃木県の南西部に位置し、いちごや佐野らーめん、いもフライといったおいしい名物をはじめ、日本名水百選に選ばれた出流原弁天池や毎年多くの人が厄除けに訪れる佐野厄除け大師、佐野プレミアムアウトレットなど自然や観光要素に恵まれた街です。また、市内に4つのインターチェンジを有



佐野市水処理センター（栃木県佐野市植下町3300）
S51より通水開始
佐野市全域の汚水を処理しています。



R4.12に完成した新上下水道局庁舎。
R5.1より新庁舎にて業務にあたっています。



入口脇にある花壇では四季折々の花と、活性汚泥を与えているメダカが出迎えます。

また、講義以外の時間についてもグループ発表の準備を通じて、全国各地の処理場の現状や抱える問題点について話し合ったり、最終日のテストに向けて相談をしたりと、とても有意義な時間を過ごすことができました。出身も年齢もバラバラの社会人が集まって同

DやSSなどの分析を行いました。管理している処理場では分析業務に携わることなく、結果の報告を聞くのみでしたが、自身で分析業務を体験したことにより研修前よりも懸念すべき点などに気づけるようになりました。この知識は維持管理を委託している事業者と話をする中で、非常に役立つっております。処理場管理Ⅱになると、「事業場排水対策」「水質トラブル・設備トラブル対応」などより実践的な内容となり、まさに今抱えている問題について新たな気付きを得ることができました。

しており、今後道路交通の要衝としての発展も期待されます。また、あまり喜ばしくないPR点にはありませんが、近年では猛暑の街として名前を聞いたことのある方も多いかもしれません。外での活動も多い下水道課職員にとっては、なかなかに厳しい環境となつて

おります。そんな佐野市で最初の1年は管渠の維持管理担当、2年目からは処理場施設の維持管理担当として業務にあたるなかで、これまで下水道工学や土木、機械、電気工学にまったく触れてこなかった身としては分からないことばかりで右往左往

しておりました。そんな折、上司から事業団研修に参加してこいと命を受け、処理場管理ⅠとⅡを受講することとなりました。泊りがけ、長期間に及ぶ研修のことではたして講義についていけるのか不安だったことを覚えております。処理場管理Ⅰの内容は

「処理場設備の維持管理の概要」に始まり、「水処理・汚泥処理概説」「処理場関連法規」など基礎的な内容からでしたので、普段の業務を振り返りつつ理解していくことができました。水質実習では隣接する処理場へ採水にいき、実際にBO

管理を委託している事業者と話をする中で、非常に役立つっております。処理場管理Ⅱになると、「事業場排水対策」「水質トラブル・設備トラブル対応」などより実践的な内容となり、まさに今抱えている問題について新たな気付きを得ることができました。

じことに取り組む機会などあまりなく、最初は休み時間等も静かなものでしたが、日を増すごとににぎやかにになり、終盤の処理場見学ではそれぞれが管理している施設とは異なる設備や取組みに驚きつつ、さながら遠足のように楽しませていただいたのは研修の良い思い出です。

不安の一つでもあった寮生活については、新棟が完成したことで、先輩方から伝え聞いたよりも快適に過ごすことができました。私が研修に参加したのはコロナ禍が落ち着きを見せだした頃でしたが、引き続き感染症対策にご配慮いただいたことで安心して研修に取り組むことができたことも大きな要因です。今後研修に参加する後輩たちには、そんな心配することはないよ、と伝えていきたいと思っています。

現在下水道事業としては老朽化による設備や機械の

故障、年々深刻になっていく自然災害への対策、事業場からの排水水質など悩みの尽きない日々ですが、ふとした時に研修の成果を感じることが嬉しく思います。今後も研修で学んだことを活かして精一杯業務に取り組む所存です。どうにも困ったことがあれば、頼もしい先生方、先輩方のお力をお借りできればありがたいと思います。

最後になりますが、研修を振り返る機会をくださった渡邊特任教授をはじめ、講義の理解具合や体調面を毎日気遣ってくれました。コース担当の辻田様、大鹿様、研修をサポートしてくださった職員の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、皆様と、共に研修の日々を送った各地の研修生の皆様のご活躍とご健勝、日本下水道事業団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

事業団研修を振り返って

埼玉県さいたま市建設局下水道部
下水道維持管理課管路保全係

山形県河北町
上下水道課下水道工務係

得地 明乃 総括主任 鈴木 信也



さいたま市 得地

この度、「研修みずのわ」

の執筆にお声をかけて頂きまして、誠にありがとうございます。私が執筆しているものかかなり迷いましたが、大変お世話になっていく渡邊特任教授と稲垣教授からのご依頼であるとともに、全国の皆様に、さいたま市を紹介出来る絶好の機

会と考えましたため、大変僭越ではありますが執筆をお願い受けしたところでは、

域を結ぶ新幹線6路線を始め、JR各線や私鉄線が結節する東日本の交通の要衝となつていきます。加えて、

【さいたま市について】

さて、さいたま市は、研修センターがあります戸田市の隣に位置しており、古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ちます。現在は首都圏と東北圏・北陸圏・北海道の各地

食文化やスポーツ文化も豊かであり、街を歩くと、美味しい和洋菓子店やパン屋さんがあちらこちらで出会え、スポーツ好きの方は、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムの開催や、プロ・トップスポーツ



20周年記念シンボルモニュメント(大宮区役所より)

チームの試合観戦も見ることができません。
様々なおすすりスポーツの中でも、さいたま市にお越しになった際には是非ともご覧頂きたいのは、「ヌウ」のポストです。どうしてポスト!?と思われるかと容易に想像できませんが、市誕生20周年を記念して作成されたものが、「ヌウ」のラッピングポストと言うわけです。そもそも、皆様あまりご

存じではないかと思いが、さいたま市には、ゆるキャラが存在します。日本最大規模を誇る都心緑地空間「見沼田んぼ」の主の子孫で、生まれ育った見沼(ミヌマ)から「ヌウ」と名づけられ、さいたま市の魅力を伝える活動をしております。他の都市様のゆるキャラに負けず劣らずの可愛さなのです。来年は、「ヌウ」の年(辰年)ですので、お見知りおきください。

【研修を振り返って】

私は、令和3年にさいたま市に入庁し、ご縁がありました。現部署に配属になりました。現部署の業務内容は、どちらかと言いますと、計画寄りの業務が多く、あまり設計に携わる部署ではありません。しかし、入庁する前は、民間で下水道調査に携わっていたこと、折角、研修に行くのであれば、設計の基礎を学んでこいという上司の優しさから、本来は「管きよの維持管理」を受講するところを、「管きよ設計Ⅰ」を受講させていただくことになりました。ありがたい機会なので、大変研修を楽しみにしておりましたが、私が入庁したタイミングは、私がコロナご時世の真ただ中(withコロナ)になった中(when)だったので、同期入庁の職員とも交流も少なく、集団行動は随分前だったことということがあります。研修内容よりも、集団行動に馴染めるか、そし

て幹事という大役の拝命を受けてしまったことから、粗相なく研修を終えることができるのかと、研修内容と関係ないことで緊張を前日はあまり寝付けなかったことを覚えております。

そして、いざ研修が始まると、案の定、様々なところで渡邊特任教授、稲垣教授始め、管きよ設計Ⅰ研修メンバーの皆様には、本人のへっぴり過ぎる上の多くなるご迷惑をかけつつ、こいつ大丈夫か、2週間大丈夫かなと心配をお掛けしたことでしょう。広い心で受け止めてくださってありがとうございます。そして、副幹事の河北町の鈴木さんには、感謝してもきれません。

また「管きよ設計Ⅰ」の研修メンバーは、地域も年齢層もバラバラで、個性豊かだったと思いますが、お互いを尊重し合える素敵なメンバーでした。

毎日講習後、極寒の中、魔法の水を補充していただき、ありがとうございます。魔法の水が足りない、毎夜メンバーの誰かが補充してくれる、連携プレー。そのおかげで、毎夜、下水道話から、各地元の話まで、夜通し楽しかった記憶があります。しかし、一つ後悔を挙げるとしますと、皆様に、たこ焼きを振舞えなかったことでしょうか。食堂で毎食美味しいごはんが沢山出てくることもあり、夜食にたこ焼きを食べたいというニーズがありませんでした。

なお、講義内容は、とても実りあるものばかりでした。講師の方々には、設計初心者にも、理解するまで丁寧に教えてくださり、また、体験談も交えて、教えてくださいました。実際の業務を進める上で大変参考になりました。最後にありますが、講師の先生方、管きよ設計Ⅰで

共に学んだ研修メンバーの方々、冷気が一段と深まり冬の訪れを感じる今日このごろ、お障りなくお過ごしでしょうか。朝晩は寒くなってまいりましたが、風邪などをひかれませんか。また、お過ごしください。また、幾度にもお世話頂いた研修センター講師の方々に感謝を申し上げるとともに、下水道事業団の益々の発展と皆様のご活躍を心より祈念致します。

では後半は、副幹事の鈴木さんをお願いしたいと思います。

河北町 鈴木

この度は、「研修みずのわ」第57号の発行にあたり、寄稿依頼をいただきありがとうございます。コースを担当して下さった渡邊先生からご連絡をいただいたときは、こういった執筆をした経験のない私としては大変戸惑いましたが、渡

邊先生からの依頼を断るわけにはいかないと、快く(?)引き受けさせていただきました。

【河北町について】

私の勤務する河北町役場が所在する山形県河北町は、山形県のほぼ中央部に位置する人口約1万7千人の小さな町です。かつては最上川舟運の紅花の集散地として栄え、紅花を上方に運んだ船は、帰り荷として多くの上方文化を河北町にもたらしました。また、農業が盛んで米をはじめとして、山形を代表する果物であるさくらんぼや、珍しいものではイタリア野菜など多彩な農作物が生産され、食文化では冷たい肉そばやソースカツ丼などが名物となっています。もちろんおいしい日本酒もあります。他にも魅力はありますが町のPRだけで終わるわけにはいきませんので、ぜひインターネットで「河北町」

を検索いただければ嬉しいです。

【研修を振り返って】

私は、令和4年度「実設計コース管きよ設計I(第4回)」を受講しました。河北町役場からはこれまで多くの先輩、同僚が事業団研修を受講させていただき、渡邊先生のお世話になってきたご縁がありま

す。研修前に渡邊先生から副幹事を引き受けてほしい旨の電話をいただいたのですが、これまで渡邊先生のコースを受講した先輩、同僚も何かしらの役を務めてきた経緯がありましたので、私も引き受けさせてい

ただきました。事業団を訪れ渡邊先生、幹事の得地さん(さいたま市)と顔合わせした時も、気さくに話し

かけていただき、すぐに緊張が解けたのを覚えています。

今回の研修で私は竣工したばかりの真新しい新寮棟で研修生活を送ることができました。居室が個室になったことでプライバシーも確保され快適でしたが、この研修に全国から集まった研修メンバーとの交流を大事にしたいと思い、一日



多目的スペースでの談笑の様子



授業風景

の研修が終わり夕食をいた
だいた後は、就寝するまで
のほとんどの時間を共有ス
ペースである談話ラウンジ
で過ごしました。メンバー
が持ち寄った全国各地の酒
や肴を味わいながら過ごし
た時間は研修以上に大変楽
しい時間でした。おかげで
毎日入浴時間がぎりぎりにな
ってしまい、風呂から上
がると見回りの守衛さんと
顔を合わせるといいう日が何
日もありました。

さて、肝心の研修ですが、
私は平成17年に行行政職とし
て採用されました。上下水
道課に異動し1年目で挑ん
だ研修でしたが、これまで
も建設関係の部署に在籍し
ていたことはありますが、
設計・積算をした経験はほ
とんどなく、研修前に初め
て関数電卓を手にしたとい
う状況でした。研修生の名
簿を見ると技術系の方ばかり
だったので事務屋の自分
としては不安ばかりでした
が、渡邊先生をはじめとす

る講師の先生方から丁寧
に教えていただいたり、研修
メンバーの助けもあり、現
場踏査から始まった一連の
設計積算業務を何とか無事
に終えることができました

た。河北町では現在も未普
及解消の管路整備を行って
いるため、今回の研修内容
はまさに実務に直結する内
容でした。数量調査も図面
作成もすべて手書きでの作
業ということで、この部分
に関しては実務でやること
はありませんが、時間をか
けて手書きで作業すること
で細かい手順を学ぶことが
できましたし、成果品が完
成した時の達成感是非常に
大きなものでした。

二週間職場を離れ研修に
参加させていただいたわけ
ですが、学生時代に戻った
ような気持ちで充実した学
びの時間を過ごすことがで
きました。幹事を務めてく
ださった得地さんには、大
変な負担を掛けてしまいま
したが大変お世話になりま

した。二週間は長いと思っ
ていましたが、振り返って
みるとあつという間でし
た。

今回の研修を受講して、
日ごろの業務において研修
で得た知識が役立つている
と感じる場面が何度とあ
り、非常に有意義な研修で
した。また、全国から集ま
った研修メンバーと毎晩酒を
酌み交わし、何度かは街に
繰り出して交流を深めるこ
とができたことはいい思い
出です。研修メンバーは職
場で多忙な日々を送ってい
ると思いますが、この記
事を読んで研修当時を思い
返して一息ついていただけ
ればと思います。

結びに、研修中大変お世
話になりました渡邊先生を
はじめ各講義でお世話にな
りました講師の皆様、研修
メンバーに改めて感謝を申
し上げるとともに、下水道
事業団の今後の益々の発展
をご祈念申し上げます。

臨時研修の縁（えにし）

「頻発する豪雨・暴風・地震災害
の対策」を受講して

埼玉県草加市建設部
河川課計画係

係長 岡川 裕介



いと思っていたところに研
修案内いただいたのは、と
てもご縁を感じるものがあ
りました。

これまでの経験として、
平成30年8月岡山県倉敷市
真備地区にて災害ボラン
ティアに参加しました。テ
レビから家屋の浸水する大
きな被害を目の当たりに
し、岡山県外からもボラン
ティアを受け入れていると
の情報がありませんでしたので、
すぐに荷物をまとめて新幹
線に飛び乗りました。
被害が起きて1週間後、
バスで派遣されたのは、真

かつてない厳しい猛暑が
過ぎ、さわやかな秋風がそ
よぐ10月、日本下水道事業
団の臨時研修を受講する機
会に恵まれました。私自身
にとり、これまでの災害対
応の経験は、日々の業務に
役立つものと捉えており、
講師の方々のお話を伺い、
さらに磨きをかけていき



岡山県倉敷市真備地区ボランティア/
第5回さいたま国際マラソン完走にて

備地区の大きな御宅でした。既に家財は運び出され、リフォームをするための壁材の除去を一日かけて30人程度の協力者で一気に行いました。作業終了後、家主のご家族に大変喜んでいただき、親戚のようなおもてなしをしていただいたのですが、被害の大きさから、逆にこちらが涙ぐんでしまうような状況であったことが思い出されます。

同様の経験として、令和5年6月台風2号による本市の浸水被害に対する対応は、これまでとは違う困難さを感じました。中川・綾瀬川流域にも線状降水帯が差し掛かった深夜から本格的に対応が始まりましたが、現場出動では、市内の幹線道路が浸水し、軽自動車では前に進めず、コンビニの駐車場に一時退避せざるを得ない状況でした。周

辺道路には、動けない自家用車が何台もあり、事態の状況を把握するにも、深夜の暗さと浸水の水かさが増していく状況にあっては、何もできない時間帯が続き、非常に忸怩たる思いでした。同時に、身の安全を確保し、次の展開に結びつけないでほならないと考え、仕方なく一旦現場を離れることとなり、夜明けから対応を再開し、被害の全容把握に努めたところです。

震災対応に関わるきっかけは、平成16年の中越地震でした。当時の長岡市長と草加市長が交流していたことを契機として、草加市の組織横断チーム「防災マウンテンバイク隊」に所属していた私は、草加消防の職員とともに、第2陣で長岡市に入りました。長岡市の市立劇場の一角をお借りし、支援物資を各避難所に届ける作業や、支援物資の中継地の倉庫整理に従事しました。全国から応援職員



臨時研修担当渡邊特任教授及び幹事/
臨時研修顔合わせにて

が毎日、市立劇場に詰めかけ、長岡市の職員の案内のもと、整然と業務をこなしていく姿に、大変刺激を受けた記憶があります。

平成23年に発生した東日本大震災では、防災マウンテンバイク隊での訓練担当として企画し実施している最中に突如発生しました。すぐに担当エリアに急行し、余震が続く中、身の安全を確保しながらの対応が続きました。夜には、旧日光街道を歩いて帰る帰宅困

難者の道路案内、翌日の夜には小学校体育館の避難所対応、翌週には福島県からの避難者受け入れのための会場設営等、立て続けに業務をこなしたことなく、研修の前提となる経験を重ねてきました。

本研修では、岩手県二戸市の古山建設整備部長から平成28年台風10号及び東日本大震災の被災を受けた実情について、福岡市の有働水道局計画部長からこれまでの水害を踏まえたレイン

ポープランや東日本大震災の応援業務について解説をいただきました。

また、千葉市の杉崎主査から令和元年台風15号の暴風被害について、熊本市の木村主査から令和2年7月豪雨の人吉市への災害派遣について説明をいただきました。さらには、4人の講師の方々を踏まえたパネルディスカッションでは、自治体職員として災害対応に当たる心得等について深く議論を重ねました。

研修を受け、災害対応から見えてくる視点としては、可能な範囲で遠方の都市との交流は有効であり、例えば研修を通じての情報交換は、非常に重要であると感じました。

また、被害状況・施設状況の「見える化」が大切であり、DXを活用した施設状況の把握等が、これから求められると捉えております。

本研修担当の渡邊良彦特

任教授におかれては、5年前にお会いして以降懇意にしていたいただき、今回幹事長に推していただきました。

渡邊特任教授との橋渡しを行っていたいただいたのは、私に草加市役所の入所当初から何かと声をかけていただいた故・高橋壮爾元草加市水道部長であり、今も天国から見守られているように感じております。

研修参加者の皆様のご協力により、無事役目を終えられたことにこの場を借りまして感謝申し上げます。

渡邊特任教授は、研修時には朝未明には起床され、ご準備いただく厳しさとともに、私たちを温かく迎えてくださる姿がまさに「人生の師」であり、臨時研修を含め、今後もご指導を賜りたいと思っております。

令和6年能登半島地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に深くお見舞い申し上げます。

事業団研修を受けて

新潟県加茂市上下水道課
工務第二係

主査 土佐 吉宗



この度は、「研修みずのわ」研修生だよりへの執筆機会をいただき誠にありがとうございます。まさか自身に原稿依頼のお話をいただくとは思っておりません。このような経験が乏しく拙い文章で大変恐縮ですが、研修を振り返り寄稿させていただきます。

私は「実施設計コース管きよ基礎」を受講させてい

や聞いたこと目にしたことにはあるけど詳細をよく理解していなかったことを今回の研修で学ぶことができ、大変有難いものでした。

しかし、結果大変有意義な研修期間でしたが、研修が始まる前は期待より不安の方が、というよりむしろ不安ばかり感じていました。都会での長期出張、同期研修生との寮生活等、研修生活に馴染めるのか不安を抱いていました。そんな中一本の電話が私の上司宛にかかり、たまたま上司が不在だったため私が電話を受け取りました。日本下水道事業団様からですと交換手から聞いた途端「もしや」と何かを察しました。というのも、私の上司が前年度同研修コースで幹事をし、事前に連絡があったことを聞いていたからです。電話のお相手は明るくはきはきとした声の渡邊特任教授でした。「ご本人が出られたということでしょうか

ただきました。この研修は17日間と長期間で、下水道用語や歴史等の基礎から最終的には自らの手で図面を描き、計算し、開削工事設計図書を完成させるという内容でした。普段はお聞きできないコンサルタントの講師の方からの特別講義や施設見学もあり、座学・体験の全講義が充実したもので貴重な経験でした。私は現在の上下水道課に異動して1年が経過した時点での受講となりましたが、これまでの担当業務だった道路河川の考えとは異なり苦戦しているタイミングでの受講でした。その1年間、設計で疑問に思っていたこと

よかった！ぜひ、幹事をお願いしたいと思ひましてご連絡いたしました！（詳細は省略させていただきます。驚くと同時にこんな貴重な経験は滅多にできることではないと思ひ、僣越ながらもお引き受けさせていただきます。

それから私の不安はほぼ全て幹事を務められるかという不安にシフトし、そのまま研修当日を迎えることとなりました。初日、とても緊張しながら研修センターに向かったことを覚えています。渡邊先生との事前ミーティング、開講式、講義とあつという間に初日が終わりましたが渡邊先生、同期研修生のみなさんから大変親切にしてくださいました。夜には談話室でお酒を飲みながら各々の地元トークやこれまでの業務体験談、各自治体の取組みなどを情報交換することが

でき、大変有意義な時間を過ごすことができました。それまでの不安が日を追うごとに楽しみに変わっていききました。ただ、残念だったのは、当時新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類になった直後でまだまだ感染拡大を恐れがあるため、渡邊先生や講師の方々との合同コンパ実施が叶わなかったことで、非常に残念でした。

研修開講前は長く感じた17日間も、周りのみなさんのおかげで充実した日々を送ることができ、あつという間に研修期間が過ぎていきました。研修が終わり通常業務に戻った今では、専門的な講義を受けたことにより、設計や数量計算方法、積算の考え方について少しずつですがチェックしながら業務を進められるようになったのかなと思います。手が止まってしまうことがあれば研修テキストや研修生のみなさんと切磋琢磨し

ながら作成した工事設計書を見返し、当時の講義を思い出しながら取り組んでいます。また、グループワークや寮生活を通して、知識を得るだけの研修ではなく日々のコミュニケーションの大切さを実感することができた研修でした。この研修での出会いに感謝しますとともに、今後も様々なことを経験し、そこでひとと出会い、下水道みずのわのようなひとのわを広げられたいと思っております。

最後になりますが、研修の際大変お世話になりました渡邊特認教授はじめ、講師の皆様、日本下水道事業団研修センターの皆様、そして、同期研修生の皆様に改めて感謝申し上げます。そして、下水道事業に携わる皆様方のご健康と益々のご活躍を心よりお祈りいたします。



加茂川上空を泳ぐ500匹の鯉のぼり



加茂山公園 池の端



北関東・栃木のまちで 癒しの時間を

栃木県足利市都市建設部

部長 新井 正章



令和5年7月29日、真夏の暑さ厳しい中、栃木県の南西部に位置する佐野市・足利市に下水道事業団の渡邊良彦特任教授、宮城県松島町の大宮司綾さんにお越しいただきました。残念ながらロマンの旅への参加を楽しみにされていた山形県米沢市の石山哲さんは欠席となりました。お二人をお迎えして小ロマンの旅を開催することができました。これまで渡邊先生には幾度となくこちらにお越しただいておりますが、その際にはお一人か男性連れでの訪問でした。今

回は、女性同伴での訪問で、あらためて小ロマンの旅として大宮司さんにもお越しいただき、両市の見所などをご案内させていただきました。小ロマンの旅当日は、各所から佐野市へご集合いただきました。前日まで研修センターで講師を務められていた大宮司さんと片柳さん（佐野市OB）が一足早く佐野市に到着。「佐野厄除け大師」を参拝し、総代

の先達さんの案内で境内を見学しました。初詣の時期には境内が埋め尽くされる程の人数がありますが、当日は行事等もなく、男女カップルでゆっくり見学することができました。その後、近くにある蔵を改装したカフェで一休み。重厚な蔵の造りとモダンな内装を楽しみながらマスターが入れる「名水コーヒー」をいただきました。

お昼近くになった頃、渡邊先生が電車で駅に到着、柏瀬さん（足利市OB）の運転で佐野ラーメンの名店「おぐら屋」に向かい先発隊と合流して昼食。さっぱりした中にも深い味わいのスープに自家製手打ち麺の組み合わせは、名店ならではの逸品です。

昼食後は赤見温泉「ホテル一乃館」へ移動、ここで足利市の新井、津久井の2名が仕事を終えて合流し、本日の参加者が全員集合となりました。ホテルでは、支配人の案内で大正ロマン溢れる館内を見学させていただきました。歴史ある建物と趣のある装飾は、大正時代へタイムスリップしたかのような感覚になりました。また、離れとなつてい



おぐら屋のらーめん

る宿泊室へ続く園路は、庭園の池を渡っていく動線となっており、猛暑の中でも一握の涼を感じられるポイントとなっていました。みなさん、次回はぜひ泊まってロマンを実感したいと話していました。

その後はホテルに隣接する日本百名水の「出流原弁天池」を見学し、次の目的地である足利市の「ココファーム・ワイナリー」へと向かいました。

ココファーム・ワイナリーは、九州・沖縄サミットの公式晩餐会や北海道洞爺湖サミットの夕食会等で採用され、世界的にも有名になったココワインの醸造所兼直売所です。ここではロマンではなくワインの試飲（有料）ができ、自分好みの銘柄を探すことができます。渡邊先生、大宮司さん、片柳さん、新井が試飲を行い、工場直送のワインとお薦めのおつまみをほろ酔い気分で楽しみました。

（残念ながら運転手の柏瀬さん、津久井さんはぶどうジュースで乾杯。）

ココファーム・ワイナリーから宿泊予定のホテルへ向かう途中、日本最古の学校として知られている日本遺産の「足利学校跡」と、周辺に広がる石畳通りの街並みを車窓から見学し、ホテルにチェックイン。その後は行きつけの居酒屋「保伍樓」へ移動し、懇親会がスタートしました。

こちらのお店は渡邊先生

が足利にいらっしゃった時に必ずご案内するお店で、店主が豊洲から直接仕入れてある新鮮な魚介類や栃木の美味しい牛肉を使った料理と、女将さんの接客とロマン溢れる軽快なトークが自慢のお店です。

みなさんが席に着き、よく冷えたビールで乾杯、小ロマンの旅を締めくくる楽しい宴が始まりました。みなさん早朝からの移動と日中の暑さでお疲れの様子かと思いきや、おいしいお



ココ・ファーム・ワイナリーのワイン

酒と料理を前に昼間の疲れも吹き飛び、楽しいトークが展開されました。今日一日を振り返るところから話題は始まり、みなさんの地元のお話や各方面での「みずのわ」のお話など、話題は尽きずにあつという間に時間が過ぎてしまいました。気が付くと締めめの料理が準備される時間で、最後は冷たいうどんをいただいて懇親会はお開きとなり、「佐野・足利小ロマンの旅」もすべての日程が終了となりました。

両市の見所はまだまだ沢山あり、とても1日ではご案内することができませんでしたが、日常とは少し違った雰囲気を読者のみなさんもお楽しみいただけました。猛暑の中、遠方より佐野市、足利市へお越しにいただいた渡邊先生、大宮司さん大変お疲れ様でした。また機会がありましたら、ごゆっくりお越しただきたいと思えます。





「宮山福会（みやふくかい）」
について

宮城県松島町建設課

参事（兼）建設班長

梁川 秀幸



とのお話しを受けました
が、年長の私が中心に寄稿
させて頂けます。

私が事業団研修に初めて

「研修みずのわ」第57号
発行、誠におめでとうござ
います。また、寄稿の機会
を与えていただき、大変光
栄に思っております。
今回の渡邊良彦先生から
私、大宮司綾さん、岡崎秀
一さんの3名での合同寄稿

参加したのが、平成9年度
の管きよ設計Iで、緊張の
なか研修所へ着き、本町の
研修生の慣例となっており
ます、渡邊良彦先生へのご
挨拶へうかがった際、お会
いしたのが初めての出会い
です。気さくでやさしい語
り口で声をかけていただき
緊張も解けたのを思い出さ
れます。その後、私はとい

うと下水道にどっぷり浸か
り、管きよ設計II、小規模
処理場管理、処理場管理
II、処理場設計II、包括的
民間委託、総合的な雨水対
策と、ことあるごとに研修
へ参加させて頂き、その
際、各コース担当教授や
講師の先生方の熱心な講義
を全国つうらうらから集
まった研修生と共に学び、
悩みを相談しあい、交流を
深めたことは、その後の自
分にとって大きな財産であ
り、日頃の維持管理や処理
場の増設、東日本大震災で
の対応などに活かされまし
た。

さて、本題「宮山福会（み
やふくかい）」の近況報告を
させて頂けます。同会
については多くの方が寄稿
していらつやますがあら
ためて会の概要について触
れさせて頂けます。同
会は、関東地方、宮城県、
山形県、福島県、ほか多数
の地域の会員からなり、事
業団研修センターの渡邊良

彦先生が代表を務める会で
平成3年度に発足し、途中
会名変更を経て今年度で32
年目を迎えております。
同会も新型コロナウイルス
感染症の影響で、近年は
活動の自粛で未開催となつ
た年や限定的な開催もあり
ましたが、今年度はやっと
呪縛から解き放たれての開
催となりました。

時期は、近年恒例の開催
日となっている10月第2金
曜日で、開催地は日本三景
の一つ宮城県の我が地元の
松島で、事業団から渡邊先
生はじめ青木先生、大鹿先
生、宮城県、山形県、福島
県、関東の方々、京都府
長岡京市からも参加いた
さき総勢27名での開催とな
りました。「久しぶりです。
元気でしたか」挨拶と近況
報告からはじまり、楽しい
歓談へ皆が持ち寄った各地
の美酒を酌み交わしながら
話しも弾み、1日目の夜は
遅くまで交流の輪を深めま
した。



松島温泉松島センチュリーホテル (集合写真)



雄島散策にて



二日目の開演・月山志津温泉仙臺屋にて

翌日の2日目は自由参加で松島散策。大宮司 綾さんを案内人として秋晴れの下、松島湾に浮かぶ島々を眺めつつ、赤色の渡月橋を渡り雄島の散策をしました。

その日松島では、日本三

景松島の更なる魅力向上に向け、安全で安心な賑わいのある道路空間の構築のため、国道45号を車輛通行止めし歩行者天国にして行われた、交通社会実験があり、私と岡崎さんは担当で残念ながら参加できません

でした。そして夜は、場所を移動し、月山の我が家こと、山形県月山志津温泉「仙臺屋」に移動し、温泉と山の幸に美酒を堪能しつつ、さらに話しも弾み、夜遅くまで宴がくりひろげ大いに盛り上

がり、今年も交流の輪が広がる会となりました。会の開催にあたり、両県世話人の福島県須賀川市の安田様・青木様、山形県山形市の山本様、阿部様には、いつも調整・手配いただき、紙面をお借りして感謝申し

上げます。最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と、研修からはじまった「みずのわ」の皆様方のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、結びとさせていただきます。

福岡みずのわ会



「福岡みずのわ会」について

福岡県福岡市道路下水道局
建設部西部下水道課

熊添 秀哉



この度、研修会報「みずのわ」に寄稿させていただくことを大変光栄に思います。

私は、令和4年度に日本下水道事業団研修の「実施設計コース管きょ設計Ⅱ」を受講しました。
当研修には、令和3年度

の第2回と第4回開催分にも申し込みを行いました。が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、惜しくも中止となっております。で、開催決定の通知が来たときは、心から嬉しく思ったのを覚えております。
開催決定から開講日までの期間はあつという間で、研修初日を迎え、当時の理事（港湾航空局長）や部長から言われていた「まずは渡邊先生にご挨拶に行くように。」との指示を胸に、事務室のドアをノックする

時はとても緊張していたのを今でも覚えています。その緊張とは裏腹に、渡邊先生は大変気さくに話していただき、ここで約3週間にわたる全寮制の研修の不安を大きく取り払って下さったのは、今思えば研修開始前の第一歩目にして大きすぎた成果だったと感じます。
研修受講生の中で私が最年少だったのですが、渡邊先生を初め、他の研修受講生の方々にも和気あいあいと接していただき、講義でも、それ以外においても研修期間中は、大いに充実した、大変濃い体験をする事が出来ました。
研修では管路施設の設計を行うにあたり基本的な確認事項から、推進工法や立坑の積算演習など、実務で活かせる講義が多く、今年度私が担当している推進工事における知識の礎になっているのを実感しております。



3年ぶりの福岡みずのわ会開催・天神にて

また、令和5年度に札幌市で開催された下水道展に行った際は、当時の研修で共に受講していた札幌市職員の方と再会することができ、研修の思い出や、近況などを語り合えたことは、本研修で築けた「みずのわ」を早速実感することができた良い機会であり、その際、研修最終日にオリエンテーションで渡邊先生から頂いた「一期一会 人は宝なり」という言葉をふと思い出し、研修の意義を再認識した次第です。

研修受講に際し、「福岡みずのわ会」の存在を知ったのですが、ここでもコロナ禍の影響で3年間開催されていない状況でしたが、まさかの受講翌年に再開され、参加の誘いを受けた時は、正直「運命だ」と感じてしまいました。開催にあたっては、渡邊先生と早速再開することができ、研修当時の思い出や、自身の近況報告をする事ができたこ

とを嬉しく思いました。また、福岡県内の都市を始め佐賀県神崎市や熊本市からの参加者も含め総勢20名以上が集い、普段は交流する機会が無いような諸先輩方と、仕事や研修に関する事など多くを語り合う事ができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。これから「福岡みずのわ会」の一員として、人と人との繋がりを大切にし、末永く本会が続くよう微力ながら尽力していきたいと思っております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響下で、感染防止対策を徹底し研修実施にご尽力頂いた日本下水道事業団研修センターのみなさまへ感謝を申し上げるとともに、研修の際にお世話になった研修受講生の皆様へ、今後のご活躍とご健康、ご多幸をお祈りいたします。

みずのわ熊本会



「みずのわ熊本会」について

熊本県熊本市上下水道局
計画整備部計画調整課

課長補佐 西村 隆博



このたび、「研修みずのわ第57号」の執筆について、渡邊良彦特任教授から執筆依頼をいただき、大変光栄であり感謝を申し上げます。

さて、私の下水道とのかかわりは、今からちょうど

異動して始めて家族が出来き、子供が誕生し「わ」が出来たんだなあということに改めて思い起こし、活字に記すことができました。

さて研修の話に戻りますが、私が最初に受講したのは、「計画設計コース 事業計画の策定」でした。

始めて研修所で渡邊先生にお会いしたときの第一印象は、キラリとした目と満面の笑みと大きな笑い声が目撃的で「豪快な人なのかな？」という印象でした。

しかし、渡邊先生との交流を深めて行く中で、尋常じゃない記憶力と人との繋がりを大切にされる姿やきめ細かい気配りに改めて感銘させていただきました。

研修の話になりますが、私の初めての事業団研修の感想は、研修後に先輩方の指導が点から線で繋が、自分の中で何か少し成長し始めたような思いが芽生えはじめ、うれしい気持ちを持つたことを思い出しまし

20年前の平成15年に道路部の出張所から下水道計画課に異動したところからが始まりです。

そして、下水道事業団への研修は、異動して2年目となる平成16年度に受講をさせていただきました。

ちょうど、その年の2月29日に長男が誕生し、その4年後、長女が誕生しています。その長男は、令和6年には、20歳を迎えることになりました。そうやって、自身を振り返れば、下水道に

た。また、当時の研修生の中に下水道事業団職員の新規採用の職員の皆さま方が多くおられ、非常に優秀であり、研修時のデスカッションの時にいろいろ助けていただきました。

今思えば、事業団の講師の方から教わるのはもちろんですが、同じ受講生の方からの助言や仲間にも恵まれ大きな「わ」となりとても大事な財産になっています。

ここからは、熊本のお話をさせていただきます。熊本では、令和5年8月に下水道BCP訓練を行いました。1日目は、北九州市・福岡市・大阪市職員の皆様方と熊本市職員の合同で地震発生を想定した管渠の1次調査訓練として、7班が熊本市内の実際のMH蓋開け・内部確認・調査票記入と調査結果報告まで行ないました。2日目は、仙台市 甲野藤次長様と大阪府 大野課長様のお二人の

実体験をもとにしたご講演をいただき、本市の職員全員が食い入るようにお話しを聞かせていただきました。

訓練は、熊本地震から7年経過し、地震の経験職員が減少し、若手職員へ継承の意味もありましたが、夜の反省会では若手職員同士の交流も活発にあり、とても大切な「わ」が出来たものと感じております。

尚、2日目午後には、皆さまに復旧済の熊本城天守閣や石積の復旧状況もご覧いただき、お忙しい中にご参加をいただいたことに大変感謝いたしております。

最後に、「みずのわ熊本会」のご報告です。

この会は、毎年2月頃に来熊され、渡邊先生を募った熊本県内の下水道事業団研修を経験した熊本県・玉名市・宇土市・菊陽町・益城町などの職員が集う会でありま

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の関係でしばらく開催が出来ておりませんでした。今年の3月に久しぶりに、開催を行うことができました。

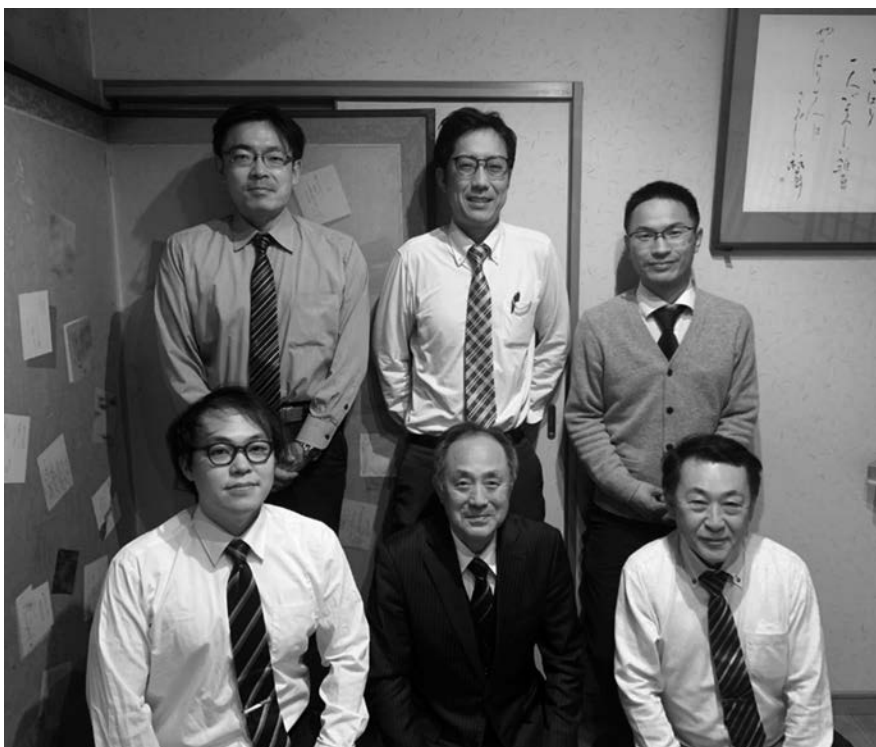
令和5年は、2日間に分けて行ない1日目は熊本市のみで、私自身は2日目に参加し熊本県・玉名市OB職員の皆さま方と熊本市職員の少人数にて渡邊先生を囲み開催させていただきました。

同じ熊本県内ではありませんが、コロナの関係もあり中々普段お会い出来ていなかったことから、私自身も皆さんと久しぶりの再会が出来て、とても楽しく交流させていただきました。

次回、令和6年みずのわ熊本会は、新型コロナウイルス感染症が発症する前のように、熊本県内自治体の皆さまにお声かけして楽しく渡邊先生を囲み交流を深めて行きたいと考えております。

最後になりますが、下水

道事業団の今後の益々の発展と「みずのわ」がより大きく広がって行くことを心よりお祈り申し上げます。



みずのわ熊本会 1～2日に分散小人数での開催

令和6年度 戸田研修(対面集合)実施計画【公務員研修】

コース	専攻名	クラス	研修期間	実施回数	受講料(円)
計画設計	下水道事業入門	初級	4	1	130,600
	★下水道計画入門	初級	5	1	142,300
	下水道事業の計画の策定・見直し	—	4	2	130,600
	下水道における浸水対策	—	3	2	119,000
	総合的な雨水対策	—	4	2	130,600
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	—	4	2	130,600
	下水道事業の広域化・共同化	—	3	1	119,000
	下水道事業における危機管理と災害対策	—	3	1	119,000
	●技術者のための公営企業会計－財務諸表活用法－	—	3	1	119,000
経営	●下水道の経営	初級	4	1	130,600
	●消費税(課題解決型研修)	—	4	1	145,200
	●受益者負担金(課題解決型職場融合研修)	—	3	1	154,000
	下水道使用料	—	3	1	119,000
	経営戦略(課題解決型研修)	—	3	1	132,000
	滞納対策	—	3	1	119,000
	●接続・水洗化促進と情報公開	—	3	1	119,000
実施設計	管さよ基礎	初級	17	1	226,200
	管さよ設計Ⅰ	初級	12	4	198,400
	管さよ設計Ⅱ【指定講習】	(指)	17	5	226,200
	推進工法	—	10	2	177,300
	●管更生の設計と施工管理	—	4	2	130,600
	設計照査(会計検査)	—	5	1	142,300
	●排水設備工事の実務	—	3	1	119,000
	処理場設計Ⅰ	—	5	1	142,300
	処理場設計Ⅱ【指定講習】	(指)	12	1	198,400
	処理場設備の設計(機械設備)	—	5	1	142,300
	処理場設備の設計(電気設備)	—	4	1	130,600
	設備の改築更新	—	3	1	119,000
工事監督管理	工事管理【指定講習】	(指)	12	1	189,000
維持管理	管さよの維持管理	初級	12	2	189,000
	管さよの点検・調査	—	5	1	142,300
	処理場管理の基礎	初級	4	1	130,600
	処理場管理Ⅰ	初級	11	3	189,000
	※処理場管理Ⅱ【指定演習】	(指)	10	2	177,300
	電気設備の保守管理	—	3	1	119,000
	●省エネ法入門	初級	2	1	60,700
	※水質管理Ⅰ	初級	10	1	177,300
	※水質管理Ⅱ	—	5	1	142,300
	事業場排水対策	—	10	1	177,300
	※水処理施設の管理指標の活かし方	—	2	1	60,700
	※水質管理のトラブル対応	—	2	1	60,700
	官民連携・国際展開	★ウォーター PPPの進め方	—	2	2
●効果的な包括的民間委託の導入と課題		—	3	1	119,000
処理場の包括的民間委託における履行確認		—	2	1	60,700

宿泊施設として新寮室棟又は管理本館棟の2施設があり、応募状況によりコースごとに宿泊する施設の違が生じるため宿泊費用も異なります。(※女性の研修生は新寮室棟への宿泊となります)

1. 新寮室棟に宿泊する場合：受講料の他に宿泊費として1泊あたり7,000円が必要になります。なお、7,000円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。

2. 管理本館棟に宿泊する場合：受講料の他に宿泊費として1泊あたり6,500円が必要になります。なお、6,500円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。

3. クラス欄の(指)は、指定講習を示します。

4. ※のコースは公務員及び民間事業者を対象としたコースです。(なお、「処理場管理Ⅱ」専攻は、第1回が「官のみ」、第2回が「官民」となります。)

5. 各専攻とも申込者が10名を下回る場合には、開催しない場合がありますので予めご了承下さい。

6. 記載の金額については、すべて税込価格です。

下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について

日本下水道事業団研修センター管理課

これから求められる
下水道技術者とは

下水道は人々の生活になくてはならない社会資本であり、令和3年度末には全国の下水道普及率は80%（下水道利用人口／総人口）を超えています。

未普及地域への対応も残る中、新設中心から管理・更新の時代へと構造的に大きく変化しており、人口減少と施設の老朽化、国・地方を通じた財政難、技術者の恒常的な不足など、下水道事業を取り巻く環境は厳しいものとなっています。

そのような環境の変化等を踏まえ、国土交通省において国民生活の安定、向上に向けて、新下水道ビジョンが策定され、その加速戦略などにより重点項目が示されており、これまでに以上に社会情勢の変化や国の動向にも対応できる下水道技術者が求められています。

下水道技術検定と
そのメリット

下水道法第22条において、下水道管理者（地方公共団体）は、下水道を設置・改築する場合の設計及び工事の監督管理並びに下水道の維持管理については、下水道法施行令で定める資格を有する者に行わせなければならないとされています。

日本下水道事業団では、下水道法施行令に基づき資格取得のために必要な実務経験年数を短縮できる効果のある国土交通省令に定められた「指定講習」並びに「下水道技術検定」を実施しています。

同検定は、地方公共団体における有資格者の早期確保などを目的に創設された制度で、前述したとおり合格すると下水道法第22条の資格取得について必要とされる実務経験年数を短縮する特例が認められています。

この検定試験は、技術の内容に応じて「第1種技術検定」、「第2種技術検定」、「第3種技術検定」の3つの区分に分かれています。

なお、実務経験年数の短縮効果のほかに「第3種技術検定」については、平成17年2月28日付で下水道処理施設維持管理業者登録規程（昭和62年建設省告示1348号）が改正され、登録規程に基づき登録するにあたっては、「第3種技術検定」に合格し所定の実務経験年数を有する者を営業所ごとに置くこととするとともに、維持管理の包括的民間委託契約においては、民間事業者側に下水道法施行令第15条の3（公共下水道又は流域下水道の維持管理を行う者の資格）に掲げる資格を有する技術者を置き、業務に当たらせることが必要となっています（平成16年国都下管第10号下水道管理指導室長通知）。

下水道技術検定

技術検定の区分、検定対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、以下の表のとおりです。

検定区分		検定の対象	試験科目	試験方法
下水道 技術検定	第1種 技術検定	下水道の計画設計を行うために必要とされる技術	下水道計画、下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式及び記述式
	第2種 技術検定	下水道の実施設計及び工事の監督管理を行うために必要とされる技術	下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式
	第3種 技術検定	下水道の維持管理を行うために必要とされる技術	下水処理、工場排水、運転管理、安全管理及び法規	多肢選択式

下水道管理技術認定試験

認定試験は、下水道管路施設の維持管理業務に従事する技術者の技術力を公平に判定し認証することにより、管路施設維持管理の健全な発展と技術者の技術水準の向上を図り、もって下水道の適正な維持管理に資することを目的とした制度です。

認定試験の区分、試験対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、以下の表のとおりです。

試験区分		試験の対象	試験科目	試験方法
下水道 管理技術 認定試験	管路施設	管路施設の維持管理を適切に行うために必要とされる技術	工場排水、維持管理、安全管理及び法規	多肢選択式

下水道技術検定等の実施内容

- 実施期日 例年、11月前半の日曜日に実施しています（令和5年度は、11月12日（日））。
- 実施場所 全国10都市で実施しています（札幌市、仙台市、東京都、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市及び那覇市）。
- 受験資格 受験資格についての制限はなく、誰でも受験できます。
- その他 例年、5月中旬に試験日程や受験申込受付期間が官報をはじめJSのホームページで公表されます。（令和5年度の申込受付期間は、6月19日（月）から7月12日（水））
受験の申込は、JSホームページより電子申請にてお申込みいただけます。また、書面での申請も受け付けます。

令和4年度の実施結果

第2種技術検定の受験申込者は1,131人、受験者は854人、合格者は297人となり、受験者に対する合格率は34.8%となりました。第3種技術検定の受験申込者は5,632人、受験者は4,744人、合格者は1,527人となり、受験者に対する合格率は32.2%となりました。下水道管理技術認定試験（管路施設）の受験申込者は1,791人、受験者は1,571人、合格者は640人となり、受験者に対する合格率は40.7%となりました。第1種技術検定の受験申込者は138人、受験者は87人、合格者は10人となり、受験者に対する合格率は11.5%となっています。

（参考）第48回下水道技術検定及び第36回下水道管理技術認定試験合格基準一覧

試験区分		出題方式	出題数	満点	(令和4年度の) 合格基準点
下水道技術 検定	第2種	択一式	60問	60	43
	第3種	択一式	60問	60	44
認定試験	管路施設	択一式	50問	50	37

○技術検定及び認定試験に関する問い合わせ先

日本下水道事業団研修センター管理課 検定担当 電話048-421-2076

次に、過去5年間の受験者数、合格者数、合格率をご案内します。〈別表を参照〉

合格率をみますとハードルの高い検定試験かと思われるかもしれませんが、令和4年度の合格基準点に目を移してみますと、7割程度の得点で合格となっております。

下水道業務に従事されている皆様、ぜひ資格取得あるいは技術力向上のために、この技術検定にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

〈別表〉☆下水道技術検定

実施年度	実施回数	第1種技術検定			第2種技術検定			第3種技術検定		
		受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率
平成30	44	100	16	16.0	885	212	24.0	4,910	1,480	30.1
令和元	45	65	8	12.3	882	244	27.7	4,886	1,330	27.2
令和2	46	73	12	16.4	848	243	28.7	4,649	1,536	33.0
令和3	47	75	14	18.7	901	297	33.0	4,935	1,751	35.5
令和4	48	87	10	11.5	854	297	34.8	4,744	1,527	32.2

(単位：人 %)

〈別表〉☆下水道管理技術認定試験

実施年度	実施回数	管路施設		
		受検者数	合格者数	合格率
平成30	32	1,782	628	35.2
令和元	33	1,654	532	32.2
令和2	34	1,378	542	39.3
令和3	35	1,569	610	38.9
令和4	36	1,571	640	40.7

(単位：人 %)

研修センターの歩み

平成4年	4・1 4・1 11・1	第9代本部長 清野 圭造就任 第11代研修部長 星隈 保夫就任 事業団設立20周年を迎える
平成5年	7・1	常任参与 北井 克彦就任
平成6年	7・1 10・7	第10代本部長 小林 紘就任 研修修了生2万5千人達成
平成7年	7・5	総合実習棟竣工
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任
平成9年	3・20 9・29 11・1	本館改修工事竣工 研修修了生3万人達成 事業団設立25周年を迎える
平成10年	7・14 8・1	第11代本部長 黒沢 宥就任 参与 内田 信一郎就任
平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
平成12年	6・30 7・3	研修修了生3万5千人達成 第14代研修部長 渡部 春樹就任
平成13年	1・20 4・16	第12代本部長 中橋 芳弘就任 参与 福智 真和就任
平成14年	4・1 11・1	第15代研修部長 篠田 孝就任 研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
平成15年	4・16 10・1	参与 色摩 勝司就任 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
平成17年	4・1 8・1 10・21	第17代研修センター所長 成田 愛世就任 第13代本部長 安藤 明就任 研修生4万5千人達成
平成19年	4・1 11・1	第18代研修センター所長 高島 英二郎就任 事業団設立35周年を迎える
平成20年	1・19 1・30	研修修了生5万人達成 研修修了生5万人達成記念行事開催
平成21年	7・14	第19代研修センター所長 藤生 和也就任
平成22年	4・1 4・22 6・10 8・3 3・11	第14代本部長 村上 孝雄就任 研修修了生5万5千人達成 本館耐震化工事着手 研修業務検討委員会設置 東日本大震災

昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任
昭和48年	2・6 5・ 12・27	研修部で研修開始 プレハブ校舎完成 試験研修本館着工
昭和49年	1・16 12・1	研修会報（研修みずのわ）創刊 第2代研修部長 丸山 速夫就任
昭和50年	3・25 4・16 8・1	試験研修本館竣工 初代試験研修本部長 池田 一郎就任 日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任
昭和51年	3・14 8・1 11・21	第1回下水道技術検定試験実施 第3代研修部長 橋本 定雄就任 第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）
昭和52年	2・16 4・1	第3代本部長 上田 伯雄就任 第4代研修部長 武田 篤夫就任
昭和53年	4・1 11・16	第4代本部長 遠藤 文夫就任 常任参与 安田 靖一就任
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任
昭和55年	10・1	第5代本部長 ト部 壮一就任
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7,603人となる
昭和57年	6・5 11・1	第6代研修部長 伊阪 重信就任 事業団設立10周年を迎える
昭和58年	4・1 8・29 11・16	常任参与 藤井 秀夫就任 研修修了生1万人達成 第6代本部長 中村 瑞夫就任
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。
昭和60年	1・1 3・27	第7代研修部長 真船 雍夫就任 新厚生棟完成
昭和61年	10・1	第7代本部長 苔米地 行三就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14,311人となる
昭和63年	1・1 4・1	第8代研修部長 石川 廣就任 第8代本部長 千葉 武就任
平成元年	9・1	常任参与 村上 仁就任
平成2年	3・31 6・11	本館改修工事竣工 第9代研修部長 亀田 泰武就任
平成3年	7・16 7・26	第10代研修部長 石川 忠男就任 研修修了生2万人達成

平成23年	4・1	機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任
	9・21	臨時研修「地震対策」実施
平成24年	4・17	研修修了生60,000人達成
	11・1	事業団設立40周年を迎える
	11・22	臨時研修「放射能対策」実施
	3・29	本館耐震化工事終了
平成25年	4・1	第20代研修センター所長 藤本 裕之就任
	11・1	第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
平成26年	4・1	第21代研修センター所長 花輪 健二就任
平成27年	11・1	第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲就任
平成28年	4・1	第22代研修センター所長 細川 顕仁就任
	7・1	研修修了生70,000人達成
平成29年	10・4	新寮室棟基本設計着手
	11・1	事業団設立45周年を迎える
平成30年	3・16	新寮室棟基本設計完了
	4・1	第23代研修センター所長 松村 弘之就任
	5・22	新寮室棟詳細設計着手
	8・21	研修修了生75,000人達成
令和元年	9・27	新寮室棟詳細設計完了
	11・1	第4代研修・国際担当及び東日本担当理事 畑 恵介就任
	11・30	新寮室棟（仮称）着工
令和2年	2・13	研修修了生80,000人達成
	4・1	第24代研修センター所長 水津 英則就任
令和3年	11・1	第5代研修・国際及び東日本担当理事 渡辺 志津男就任
令和4年	4・1	新寮室棟供用開始
	11・1	事業団設立50周年を迎える
令和5年	4・1	第25代研修センター所長 豆谷 竜太郎就任





青空の下の松島湾



松島湾の初日の出



軒端の梅



五大堂



瑞巖寺庫裏



雄島の切り通し

宮城県松島町

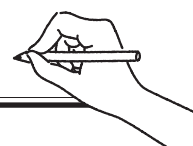
編集後記

今回、初めて編集に携わらせていただきましたが、本誌のこれまでの歴史を見ますと、編集作業に携わることが出来た1人の職員として大変誇らしく感じました。

編集をするにあたり、ご執筆いただいた皆様のお気持ちが込められた原稿を拝読してみますと、研修センターでの学びや生活が皆様方の重要な財産として活かされていることが感じ取れ、改めて研修センターの存在意義を認識することが出来ました。

本号への執筆者様をはじめ、歴代の研修生の皆様、研修センターの研修業務にご協力を賜りました皆様には、厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻を頂きますと幸甚に存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。

研修企画課
課長代理 岸本 涼一



「みずのわ」の名前の由来

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きくなつながら生まれるように、との期待を託したものです。



めざせ
100年



機関誌「**研修みずのわ**」 第57号

令和5年1月発行 第57号

発行 地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141
TEL 048-421-2692
FAX 048-422-3326
印刷 株式会社石井印刷